

一 讀能辯
演說與演講



序著



始



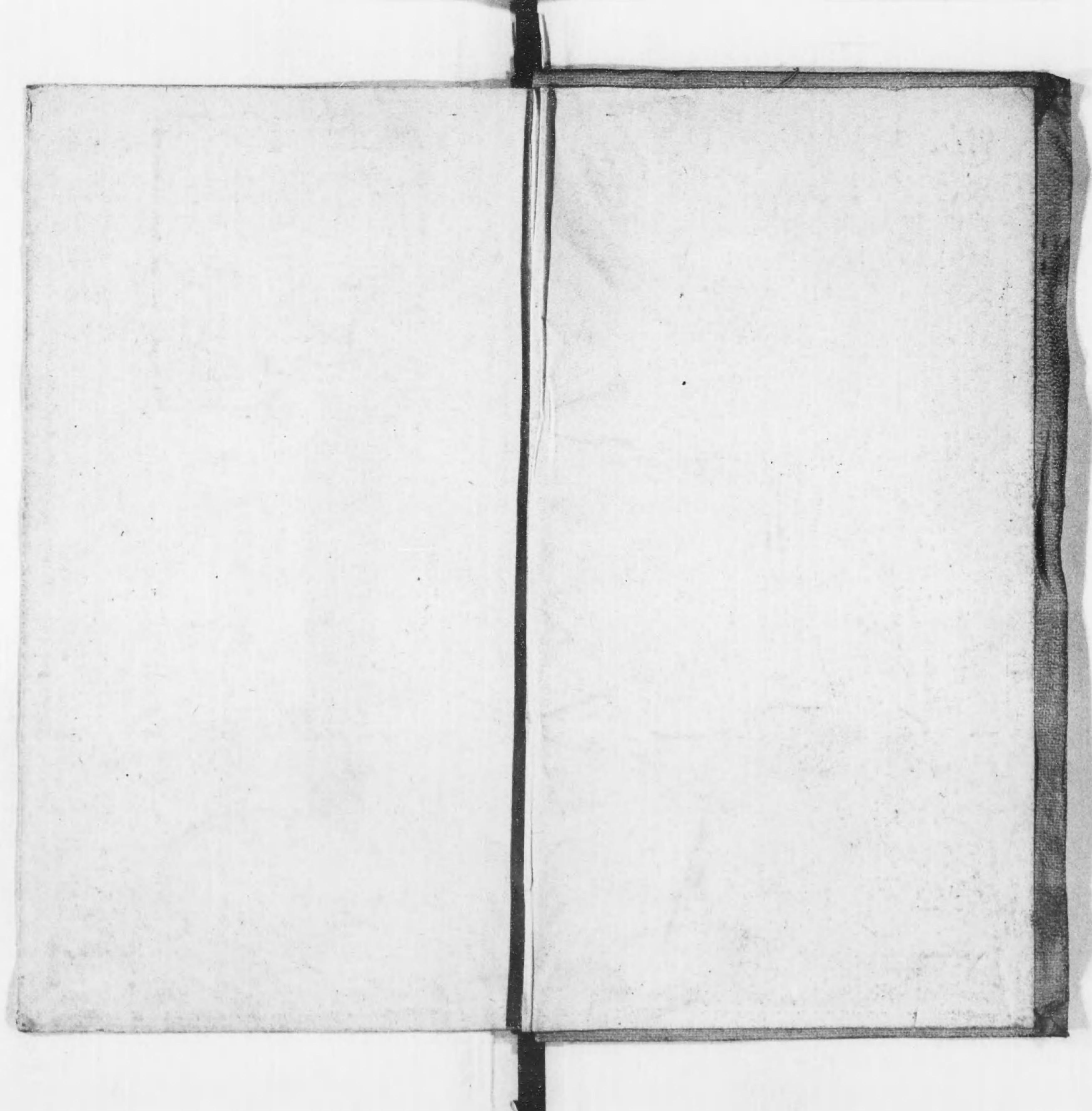
辯能讀一

演講と説演



原著





持109
710



第一
演說
と
講演

大正
11. 1. 30
内交



序

言ふことは知つて居ても、大勢の前でお話することは實に六ヶ敷いものでして、膝つき合せて會話することには上手な人でも、百人二百人の前では、一口も半口も云へない人が多くあります。演説するのは何にも嘶家がするように、また活動の辯士がして居る様に特別に妙な工夫をする必要はありませんが、機に應じて、自分の思想を思つたように發表する工夫をすることは絶対に必要であります。

文明が複雑になつて、民衆の力が大きくなると共に、ただ文章で人を動かすだけで物足らなくて、幾百人、幾千人、時には幾萬の人々が雄辯に動かれねばならぬようになりますと如何な

る人でも人の前で演説の一つ位は出来るように準備しておかねばなりません。その爲めに、坂井末雄氏の通俗的なお企てはどんなにか、大勢の人々に役立つか知れません。私は必しも坂井氏の云はれることに一々賛成するものではありません。然し演説と云ふものを六ヶ敷いものだと考へて居る人々に、それを平凡化し、民衆化して下さる善い御趣旨には心より賛成するものであります。それで此書が多くの人々に利用せられ、日本の文化が一層高くならんことを祈るものであります。

大正十年臘月一日

賀川豊彦

目次	
内 容	次
一、演説と講演の異同……………	一
二、普通の演説と論断的演説……………	五
三、草稿演説と記憶演説……………	二二
四、壇上演上の注意と聴衆の感化……………	二八
五、演説進歩の三階段……………	三四
(いゝる) 演説 体……………	三七
醫師會總集會に於て……………	三七
鑄物業組合例會に於て……………	三〇
市場開場式の辭……………	三二
答……………	三七
市場紀念式の辭……………	三七
答……………	三九
移轉祝の席上にて……………	四一
石屋工賃値下反對協議會に於て……………	四三
生花會の席上にて……………	四五
遊獵團の出發に付て……………	四九
一週忌の吊詞……………	五一
(いゝる) 講演 体……………	五三
感 激……………	五一
伊藤公と大石良雄……………	五三
以呂波歌と弘法大師……………	六一
稻荷大明神と狐の因縁……………	六五

遊戯と遊興の辨……………七〇

十六夜櫻と芳野櫻……………七三

衣裳の變遷……………七八

石川五右衛門と鼠小僧……………八二

一字千金の說……………八六

(ろ) 演 說 体……………九〇

露店設置期成同盟會に於て……………九〇

六週間現役入隊者を送るの辭……………九五

(ろ) 講 演 体……………九九

羅馬字と漢字の得失……………九九

籠城の戰略上に於ける價值……………一〇二

ハ、臺と貧民の關係……………一〇七

肋膜炎と自療法……………一一〇

(は) 演 說 体……………一一三

賣藥業者發展會席上に於て……………一二三

帽子業組合宴會の辭……………一二五

報恩會席上の辭……………一二七

端唄會席上の辭……………一二九

博多織物組合會同に際して……………一三三

肺病院上棟式の辭……………一三六

袴裁縫業組合會席上に臨みて……………一三九

博覽會閉會を祝するの辭……………一四五

刷毛製造業者相場協定會に於て……………一五五

牛酪製造業者組合設置に於て……………一五八

旅籠屋組合茶代撤廢反對會に於て……………一四四

羽二重輸出商集會に臨みて……………一四四

齒磨製造業者同盟會に於て……………一四六

刃物販賣商組合相談會に於て……………一四八

麵包製造業者卸値協定會に於て……………一五二

馬術競技開會の祝辭……………一五四

發明品出品評會に於て……………一五五

(は) 講 演 体……………一五七

拜啓と陳者……………一五六

坊主と神主……………一六〇

パイブルと論語……………一六四

馬鹿と博士……………一六六

(に) 演 說 体……………一六九

入學試験及第者を祝するの辭……………一六九

新嘗祭の祝辭……………一七一

西陣織物業者規約勵行會に於て……………一七三

入營者を送るの辭……………一七五

入札會席上に於て……………一七六

肉食獎勵會に臨みて……………一七九

荷車荷馬車同業組合非常總集會に於て……………一八一

荷揚人夫賃銀値上同盟會に於て……………一八四

荷受問屋同業相談會に於て……………一八八

(に) 講 演 体……………一八八

日本の國號に於て……………一八八

日蓮宗の團扇大鼓……………一九〇

女房と鐵砲……………一九四

人參の効用に付て……………一九八

肉體美と服裝美……………二〇〇

(ほ) 演 說 休……………二〇三

貿易商發展會に於て……………二〇三

紡績會社女工慰安會に於て……………二〇五

保險會社創立祝賀會の辭……………二〇八

盆踊復活を祝するの辭……………二一一

奉公人慰勞會に臨みて……………二一四

盆栽會席上に於て……………二一六

ほ) 講 演 休……………二一八

本妻と權妻……………二二八

(へ) 演 說 休……………二二二

米壽祝宴の辭……………二二二

兵士歡迎會の辭……………二二三

米穀商卸協談會に於て……………二二五

(へ) 講 演 休……………二二七

平凡の說……………二二七

(さ) 演 說 休……………二三〇

圖書出版業組合新年會に於て……………二三〇

銅鐵商組合忘年会の辭……………二三三

同窓生懇親會席上の辭……………二三四

同縣人會席上に於て……………二三四

(さ) 講 演 休……………二三八

讀書の趣味……………二三八

(ち) 演 說 休……………二四〇

知事送別會の辭……………二四〇

中學校卒業の式辭……………二四二

茶道會席上に於て……………二四三

茶業組合頭取改選に付て……………二四六

筑前琵琶會に臨みて……………二四八

(ち) 講 演 休……………二五三

長壽の得失……………二五三

(り) 演 說 休……………二五六

旅館開業の式辭……………二五六

良縁を祝するの辭……………二五九

理髮業組合常集會に臨みて……………二六一

(り) 講 演 休……………二六三

利の說……………二六三

(ぬ) 演 說 休……………二六六

塗物商臨時總集會に臨みて……………二六七

縫箔業組合協議會に於て……………二六八

(ろ) 演 說 休……………二六九

留別會の席上に於て……………二六九

(を) 演 說 休……………二七二

帶解祝の式辭……………二七二

桶屋同業組合設置に付て……………二七三

音楽會の席上にて……………二七三

(わ) 演説 体……………二七五

綿打業組合工賃値上協議會に於て……………二七七

和歌會に臨みて……………二七八

(わ) 講演 体……………二七八

ワイ、エム、シー、エー……………二八一

(か) 演説 体……………二八一

貸座敷組合臨時會開催の辭……………二八一

瓦斯點燈料値下運動に於て……………二八三

貸座敷組合會に於て……………二八四

送賣廢止同盟會に於て……………二八六

孝子表彰式の辭……………二八八

紙商組合協議會に於て……………二九〇

開店披露の祝辭……………二九一

(か) 講演 体……………二九二

開拓事業……………二九二

(よ) 演説 体……………二九五

寄亭開演式の辭……………二九五

洋服商組合會議に臨みて……………二九六

(よ) 講演 体……………二九八

餘興の選擇に於て……………二九八

(た) 演説 体……………三〇一

唐物反物店開業式の辭……………三〇一

大工組合服務規約勵行に於て……………三〇五

(た) 講演 体……………三〇五

紙鳶と飛行機……………三〇五

(れ) 演説 体……………三〇八

禮法指南場開始の辭……………三〇八

(そ) 演説 体……………三〇九

葬儀場に於ける吊辭……………三〇九

染物業組合相談會に於て……………三二三

(つ) 演説 体……………三二四

通俗講演會の席上にて……………三二四

通運會社仲仕の同盟罷業に於て……………三二三

(れ) 演説 体……………三二四

年賀回禮廢止に於て……………三二四

念佛講に臨みて……………三二六

(な) 演説 体……………三二九

内國通運會社仲仕相談會に於て……………三二九

(ら) 演説 体……………三三一

勞働者大會に臨みて……………三三一

蠟燭製造業組合集會に於て……………三三七

(む) 演説 体……………三三九

無盡株式會社創立の祝辭……………三三九

(む) 講演 体……………三四〇

無用と有用……………三四〇

(う) 演説 体……………三四三

魚市場開場式の辭……………三四三

運動會の式辭……………三四五

(の) 演説 体……………三三七

農學校卒業式の辭……………三三七

農談會に臨みて……………三三九

農具陳列會に於て……………三五二

(く) 演説 体……………三五三

活版職工組合會に於て……………三五三

活動寫眞館開業式の辭……………三五五

九州視察團隊の出發に際して……………三五六

(や) 演説 体……………三五八

夜學校開校式の辭……………三五八

數入小僧を送るの辭……………三六〇

(ま) 演説 体……………三六一

盲啞學校卒業式の辭……………三六一

待合開業祝宴の席上に於て……………三六二

(け) 演説 体……………三六四

縣會議員立候補發表の辭……………三六四

縣會議員推薦の辭……………三六六

縣會議員當選の謝辭……………三六八

劇場落成式の辭……………三六九

藝妓營業稅輕減協議會に於て……………三七〇

(ふ) 演説 体……………三七五

佛教講話會に臨みて……………三七五

(ふ) 講演 体……………三七五

鮎の効用……………三七五

(こ) 演説 体……………三七九

國會議員推薦の辭……………三七九

公會堂落成式の辭……………三八二

(ね) 演説 体……………三八四

謠曲研究會に臨みて……………三八四

衛生新報發刊の式辭……………三八六

(て) 演説 体……………三八七

電話交換手慰勞會に於て……………三八七

電車開通を祝するの辭……………三八九

天長節の式辭……………三九一

(あ) 演説 体……………三九二

按摩鍼灸業者人格昂上に於て……………三九二

(さ) 演説 体……………三九五

産婆風紀問題に於て……………三九五

在郷軍人團開會式の辭……………三九七

(き) 演説 体……………三九八

橋梁架設落成式の辭……………三九八

(き) 講演 体……………四〇〇

紀元節に於て……………四〇〇

(ゆ) 演説 体……………四〇二

郵便配達夫慰勞會に臨みて……………四〇二

(め) 演説 体……………四〇五

命名式に臨みて……………四〇五

(み) 演説体……………四〇七
 ミシン業の普及に付て……………四〇七
 (し) 演説体……………四〇九
 市會議員推薦の辭……………四〇九
 書籤競市來會者に對して……………四一一
 (ひ) 演説体……………四一二
 肥料取引改善に付て……………四一二
 (も) 演説体……………四一四
 木綿反物商懇談會に於て……………四一四
 (せ) 演説体……………四一六
 石鹼商組合協議會に於て……………四一六
 (す) 演説体……………四二〇

水害罹災者慰安會に於て……………四二〇

次(終)

能一讀 演説と講演

坂井末雄著

演 講 と 説 演

(一) 演説と講演の異同

諸君………只今私より演説とは如何なる者でありますか、奇問を發しましたなれば、諸君の御答は、必ず自己の思想を、聴衆に傳達するのである云ふに、一致するでありませう、更らに講演に對して、同一の問を起しましたならば、是れ

も亦た前言同様の御答を得る事と信じます、總じて演説にせよ講演にせよ、其目的とする所は、如何にも御答の通りであります、併し講演は題材が既に普通演説と異りまして、特別の智識と特別の見解を要するのでありますから、説述の手段も幾分演説と趣きを異にすべき筈のものであります、其理由は……先づ政談演説の場合を借り來りて、説明を試むる事に致しませう、今茲に自己と政見政策を異にして、縣郡政若くは市町村政等に對しまして、民衆の安寧幸福を阻害するやうな言動を敢てして、自派自黨の野心を遂行せんとする者があるに假定致しませう、斯る時に際しては、よし政治家ならずとも、多少政治思想を懷抱する者であつたなれば、自己の休戚に關する一大問題でありますから、憤然起つて、之が防禦の任に膺る事は、自己當然の權利にして、而も亦た自己當然の責任であらうと

思ふ、されば演壇に立つの準備として、先づ其争点となるべき事件の觀察や、事件の推定は如何にすべきか、又如何なる方法を以て、野心派の壘壘を塵粉すべきか、且つは聽衆をして、民衆化するには、如何なる身振、如何なる手勢、如何なる語調で、拍手喝采を博して、自己の論旨に悦服せしめる事が出來やうか、以上の要件に對しましては、必ずや多大の苦心と、多大の工夫を要する事は、申上る迄もありませんまい、夫の演説を以て殆んど一種の職業となして居る者すら、演壇に立つ瞬間の態度には、細心の注意を拂ふ位であります、ましてや未だ演壇上の經驗に乏しい者が、幾百千人の聽衆を相手として、自己の論旨を遺憾なく演了して勝を一舉に收めんとするには、秦心楚恨の思ひを爲すにあらずんば、到底成功を見ることは出來ないのであります、演説は斯の如く幾多の準備を要するが、講演

は左迄の心配には及ばぬと思ふ、何となれば講演の主題となるべきものは、大抵講演者自身が、研究に研究を重ねた、事實其物の報告か敷衍か論断かに外ならぬからであります、しかし講演ごでも、咽に團子の引つか、つたやうに、音聲が杜切れ杜切れて、流暢を缺ぎ明快を失ふやうでは、所謂興味索然で、何等聴衆に快感を與ふる事は出来ないから、音聲の整調や、例話の興味には、十二分の注意を拂ふべきは、勿論の事でありませう、以上の説明によつて、演説法の用意如何に、講演法の心得如何は、大畧御了解になつたでありませうが、私は更に兩者の異同に付きまして、一の定義を下して、諸君の御参考に供する事に致しませう。

一、演説は放膽文のやうに、横説縦説、天馬空に行くの概があり、而して聴衆を囊括するの壯觀がなくてはならない。

二、講演は小心文の如く、雕辯妙辭、連城の完璧たるの觀があり、而も亦た聴衆を首肯せしむる底力があらねばならぬ。

苟も此軌道を踏み滑つたが最後、聴衆の冷笑を受くるか、悪罵を招くかして、終に發言の自由を失ふやうになるのであります。

二 普通的演説と論断的演説

諸君……諸君は、雄辯は銀也沈黙は黄金也云ふ格言を、如何に御解釋になりますか、雄辯其者の價值が、銀に相當する云ふのは、誰も異存はありませんまいが、呆然たる訥朴漢に對して、其代償に黄金を提供するが如きは、よし打算的ならずとするも、沈黙の價值が、餘りに高きに失するではありますまいか、個は唾

眉一番、諸君と共に研究を要する問題であらうと思ふ、勿論平地に波瀾を起すが如き言辭は、慎まずばなりません、又將來の面倒を惹き起すやうな言論は、猶更戒飭の必要がありません、されど夫の饗宴會同の席上とか、若しくは留送別の會合なきに、堅く沈黙を守つて、左右の人と對話を避けるやうな行爲は、如何に之を善意に解釋しても、黄金代償の價値は認められないやうであります、寧ろ八方に應酬して、座輿を助くるのが、彼我交驩の要訣ではありますまいか、果して然らば沈黙は地金也、雄辯は黄金也、修正致しまする方が、適切かも知れません、一体御互が此世に生存する以上、言語は自他の意思を表明する所の要具でありますから、普通座談の如きも、興味ある者を選んで、修辭に心を用ひねばならない、殊に演説の如く、多人數相手の場合は、層一層修辭の必要ある

は、今改めて申上ぐるまでもありますまい、私が非才を顧みず、本著を公にするに至りましたのも、畢竟此必要の幾分を充たす所以に外ならない、然らば坐談の折と演説の時とは、如何に方法を取換へたがよいか、それに付きまして、多小申上げて見たい事があります、凡そ舊識と新識とを問はず、相手が少數でありますれば、日常慣熟する所の坐談法によるべきは、勿論なれども、多人數相手の場合に、少しく複雑した事柄を演説致しまするには、修辭的演説句調を以てするにあられれば、満坐満場の人々に向つて、我が意見の反映を庶幾し得られるものではない、ありません坐談法は暫く措き、今普通演説法を語るに方りて、婚姻式を題目に借る事に致しませう、之を月並的に演べましたなれば、今回某氏の媒介によつて、某邸の令息と令嬢とが、茲に日出度結婚の式を挙げられる事になりましたのは、

實に慶賀に堪へませんの常套語を、冒頭にして、或は新郎の學歴技倆やら、或は新婦の人となりやらを頌讚して、幾久しく琴瑟相和するの希望を述べ、聊か以て祝辭を致しますで、式場の責を塞ぐのが、殆んど紋切形になつて居ります、之を修辭上より批評致しますれば、實に半文錢の價値のないものであります、又大引に、之を大禮の式場挨拶に見ましても、餘りに平凡で、何とも評の下しやうがない、されば如何にすれば、腐を化して新しなし、泥を變じて金となすの手段があるかご申せば、先づ直喩隱喩活喩等の方法によつて、相愛より相敬に言及するか、或は現在の光榮よりか、後來の耻辱なきを希望するか、或は終始一貫の相愛相敬は、互に難きを攻めざるに由る所以を述べるのも、亦た一方法でありませう、坐客一同は、己に夫の月並式辭の痺藥に當惑して居る矢先きに、斯の如く巧妙

9 演 講 と 説 演

に婉曲に述べましたなれば、新郎新婦は勿論、満坐の人々も、恰も延齡幸福湯の配當に與つたやうに、必ず破顔一笑、初めて目出度さ氣分に打たれるに相違ありません、學ぶべきものは修辭法にあり、練るべきものは奮辯法であるに、御了解下さいませれば、御互も亦た目出度事ではありませんが、然らば論斷的演説を試みんとするには、如何なる準備を以てすれば、演壇に立つことが可能ませうか、此事に付きましては、作例中に正叙側叙順叙倒叙等の諸法を以て、御練習の材料を提供する筈ではありまするが、差寄り其概念を、諸君に御與へ申して置く必要がありますなら、一番御判り易い前斷後解法で、日本人の性格を題して、解説致す積りであります、第一日本人は遠大の志望に乏しい、今日の事には齷齪するが明日の事には注意を缺ぐの傾きがある、第二恒久心がない、即ち徹夜の勉強は

するが、恒久不斷勉強を持續するの念がない、第三協戮心に缺如せる点がある、第四日本人は勉強を以て理想とせずして、遊樂を以て理想として居る、其証據には勉むるは、遊ばんが爲め樂まんが爲めの勉めで、換言すれば左團扇主義のヌラクラ者である、斯んな按排に日本人の缺點を一々論斷して、其れに附註を加へて前後の照應を取るのが即ち前に斷じて後に解く云ふのであります、此論法は頗るギビくして、聽衆に快感を與ふるものでありますから、演説法としては、一番割のよいものであります、文法で申さば所謂疎枝大葉の文でも評すべきもので、初心の人には實に持つて來いの方法である、兎まれ角まれ演説は、熱誠に欠くる處があつては、到底聽衆に感動を與ふる事は出來ないのであります、一寸壇を下りて、喫烟一番、諸君と共に休憩する事に致しませう。

(三) 草稿演説と記憶演説

諸君……帝國議會の開會毎に、國務大臣ごもが、貴衆兩院に亘つて、交々壇上に現れまして、自家の管掌に係る、外交上の経過やら、乃至は豫算案の説明やら致しまするが、其都度く必ず草稿を携へまして、朗讀的演説を試みまする事は諸君も既に御目撃の事でありませう、處が……世の新聞記者等は、之を草稿演説として、非常に播貶すやうでありまするが、之は少しく褒貶の道を過まつて居るではありませんまいか、豫算案の如く數字に關するものや、外交の如き事件の複雑を極めるものは、如何に明敏強記の人と雖も、一々之を暗記して居る譯には参りませんまいから、草稿を辿つて、説明を過まらないうにするのは、寧ろ國政に

忠なる所以で、無下に之を貶斥するの理由は、毫も認めないのであります、試みに地を變へて、評者をして彼等の地位に立たせましたなれば、猶且草稿なしには一事件の説明だに、満足を與ふる事は出来なからうと思ふ、事苟も國家民人の休戚に關する豫算案の類や、國權の消長に係る外交問題の説明を試むるに方りて徒らに音聲の高低ごか、修辭の巧拙なごに心を奪れて、豫算の數字や、事件の真相を誤報するやうな事が、萬一にも之ありせば、其れこそ收拾すべからざるの禍害を醸さないごも限りません、されば議員たる者は、國務大臣等が、塞咽的團子辯も、笑を忍んで聽かねばならないのであります、又吃々たる訥辯ご、眠を耐へて傾聽するの義務があります、然るに底事ご……國務大臣等が壇上に現れてポケットから草稿を取出しまするご、又かご云ふ調子で、何卒か簡單に願ひます

ご、喧々囂々を極めて、擲擧倒さずんば止まなない氣勢を示すのであります、如何に黄金の爲めに、當選の僥倖を得たる陣笠議員ごは申すものご、餘りに無責任極まる仕打ではありませんか、一体新聞記者や陣笠連中は、國會其者を視るごご、恰も政黨屋の演説會か、書生輩の討論會でも、傍聽するやうな氣分で、臨席致しまするが故に、斯る見當違ひの酷評を下して、却て得意がつて居るのであります、實に事理を辯ぜざるも亦た甚だしいご申さねばなりません、恃り國家問題に限らず、縣郡政市町村政等に於きましても、數字的説明を要する際には、説明者の責任ごして、必ず草稿を離すべきものではあるまいご思ふのであります、諸君……草稿演説に對しまして、私が尠からざる回護の辯を奮ひましたから、或は諸君は草稿演説には、音聲の整調や、手勢の運用なごは、全然必要ないもの

ご、早合點なさらないごも限りませんが、其れは程度の問題でありまして、強ちに團子辯的朗讀で、草稿演説の能事畢れりご申すのではありません、元來説明を要しまするものは、兎角活氣なく光彩なく、動もすれば乾燥に流れ、平板に傾き易いものでありますから、之を下手に出られては、如何に耐性に富んで居る者でも、それが結局を告ぐるまでには、欠伸の三つ四つは、失敬せざらんご欲するも、亦た能はざる所でありまして、で……慾を申しますれば、國務大臣叢も、少しは演説法の修練に心を用ひて貰ひたいのでありますから、何を申しまして、最早時代遅れの人物が多いのでありますから、それは満頭の白雪に免じて、寛容の雅量を示してやらすばなりますまい、よし數字の説明に致せ、事件の報告に致せ、多少演説法の心得がありましたなれば、興味ある例話や、變化ある口調によつて

情氣を壓へて活氣を喚び起し、喧騒を防いで整肅を保たしむる事は、一枚三寸の舌で以て、容易に翻弄するごが出来るのであります、之に因て之を観れば、演説の修練は、決して閑却すべきものでない事が、御判りであらうご信じます、之より私は記憶演説の事に言及して、本題の完結を告げたいのであります。

諸君……天の配劑云ふ者は、實に靈妙不可思議なものではありませんか、記憶に富める人は才氣が乏しく、才氣に勝つた者は、記性に缺ぐるやうであります之を兼ねる人は、古人の所謂蓋し之れあらん、未だ之を見ずで、不幸にして未だ私もさせる重寶な人間に出會した事がないのであります、しかし強記に缺けるからこて、強ちに心配の必要はありませんが、人ごして才氣の乏しいのは、眞に憂ふべき事でありまして、世には萬年曆的に、一事一物も漏らさず、強記して居る人

がないでもありませんが、此種の人物は單に知つて居るに云ふだけで、其知つて居る事柄を實地に實現して、社會の耳目を聳動させるやうな、華やかな活動は、到底出來ないものであります、之に反して才氣煥發の人は、能く時を測り能く勢ひを見て、敗を轉じて勝となし、禍を化して福となすの手腕がありますから、此プラス、マイナスの差異は、人間處世の道に於て、後者の有用にして、前者の無用なることは、識者の判断を俟たず、其利害得失は容易に解決し得らるべきものだと思ふ、で！記性に薄い人が、草稿なしに流暢の快辨を奮はんとするには、左の方法によりますれば、其缺點を補ふ事が出來やうと思ふのであります、それは一小片紙に、題目に關する一事一件を摘記して、其梗概を擴張するに足るべく、思想の構成に注意を拂ひましたなれば、過去の事柄は幾分明瞭を缺ぐの憾みがある

まして、現在に將來に付て、力説する所がありましたならば、決して失敗を招くやうな恐れはないものであります、一体演説なるものは、過去の事例を了解せしむるばかりでは、何等聴衆に感動を與ふべきものではありません、過去を語るは、要するに現在に襍接せんが爲めで、其主とする所は彼にあらずして、之にあるからである、濫に過去を語つて、死兒の齡を數ふるが如きは、斷じて智者の取るべき、手段ではないと同時に、演説其者をして、光彩陸離たらしむる所以でもありません、之を要するに記憶演説でも、全然草稿なしに行つて除けよご、無理な難題を要求する所以でない事を、御了解下さらば、私の持論は既に諸君に徹底したものでして、本題を結ぶ事に致します。

四 演壇上の注意と聴衆の感化

短時間に演了し得られる、祝賀祭吊等の式辭は、下手は下手なりに、怎うにか慥うにか、其場のお茶は濁せるものでありますが、公會堂や大劇場などに殺到せる幾百千人の聴衆を相手にして、自己の所見を演出致しまする場合は充分の準備、充分の自信がなくては逆も成功を望むことは覺束ない、先づ私の經驗を語つて、御参考に供する事に致しませう、第一自己と聴衆とは、其境遇を異にするは勿論其智識程度も、將た閱歴に於ても、多大の差異ある事に、注意を拂はねばなりません、第二自己の所見を主張するには、單に了解し易い卑近の事例のみを擧ぐれば、案外効果の薄い感みがあるものであります、第三主想客想媒想の三要素に

對して、其演出の順序を過まるのも、亦た敗因を招くの一つであらうと思ふ、第四聴衆を指導するの信條も、熱誠に缺くる所があれば、聴衆を熱狂させる事が不可能なるのであります、以上は演説の準備と自信、縮めて申さば腹案も云ふべきものであります、愈々壇上の人になつて、嚙咳一番、盤上走球の如く、滔々述べて去り述べ來りて、一語は一語より痛快の感を與へ、一節は一節より狂熱の度を昂め、一の表情一の手勢は、殆んど聴衆をして、催眠状態に陥らしたやう、自己の指導のまゝに、拍手喝采、満場を震撼するやうな成功は、素より腹案の構成如何によるは、言ふまでもありませんが、其腹案のまゝを、自由自在に活用するなごの出来るまでには、充分の修養を積むにあらずんば、到底夢想だも出來るものではありません、斯くの如く申上ぐれば、演説は非常に至難の事業で、

容易に手が着けられないやうに、思召すかも存じませんが、所謂底には底ありで一の方法さへ悟入すれば、雄辯の人となり、達辯の士となる事は、實にお茶の子洒々であります。

諸君……演説云ひ文章云ひ、其大小長短に拘らず、之を解剖致しますれば頭も腹も尾の三段に過ぎません、文章家が起頭の一句に腦漿を絞りまするやうに演説家も開口に先だつ登壇の一刹那に、多大の苦心を要するものであります、之は恰度力士ミ力士が、取組むに際して、仕切りに入念するやうなもので、其注意の精疎如何は、成敗利鈍の岐る、所でありますから、之を閑却しては、直ちに鼎の輕重を問はれるやうになるものであります、然らば如何にせば可ならん乎てふ疑問が、必ず起るべき筈であります、這は其人の自得に待たねばならない事でもあ

寸法を守つたものでありませうか、寝るこ起るは、各人の自由ではありまするが天地間の約束は、珍妙不思議なもので、山程積んだ財産も、寢食ひをすれば、束の間、盡き果て、仕舞ふやうに、悠々怠けて居ては、多少の蓄財は、忽ち雲散霧消して、聽ては一碗の粟粥さへも、啜れられないやうになるものであります、そこで、名の爲め利の爲めでなくとも、一身を支へ一家を支へるには、如何あつても働らかなければならぬやうに、チャンシ組んであるのであります、上を見れば又限りがないのである、是に至つて人は、天道是か非かの嘆を漏らす者であります、之がそも間違の骨頂である、一休地位か名譽か云ふものは、衆愚を操る爲政治家の手段で、其秘密箱を覗いて見れば、位階勳等なんかは、衆人の涎を垂らす程、雖有味のあるものではありません、何はさてをき、人間は身を高處

に居く事が肝要であります、大臣でも大將でも、自己勞働の報酬を以て、自己の代理行爲をなさせる爲めに、雇入て置くもの達観すれば、自己が主人で、彼等は一の雇人たるに過ぎないのであります、千兩役者も日下開山も、此通りに思ひ傲して、自己が娛樂の一端を満足させる、自動的一種の機械を見て仕舞へば、羨ましくも望ましくもないものであります、さて私が申しまする、達観か悟道か云ふのは、名僧高德の勿体振るものとは、大に違ふのでありますから、木魚の音を聴いたり、線香の臭いを嗅いだりして、悟れるものではありません、御互は御互に、夫々天分があります、其天分は畢竟天職であるに、高く自ら矜持して居りますれば、荷車挽かうに、肥桶擔かうに、毫も不名譽でもなければ、又苦痛を感ずる事もない筈であります、しかく悟るには、心に餘裕を保つ云ふ事が、面

恰も導火性燃料の如きもので、一たび之に熱辯を酬ゆれば、忽ち發火の變調を現しますると同時に、冷語以て之を鎮靜すれば、焦天の火勢も、忽ち熄滅の常態に復するものであります、されば此性情を利用して、之を翻弄し之を指導し、之を心酔せしめ之感化せしめて、自家藥籠中の物となすことは、一に懸つて演説家三寸の舌頭にある事でありませれば、演説の興味も亦た大なる哉ではありませんか。

(五) 演説進歩の三階段

諸君……些古めかしいやうではありますが、物に本末あり事に終始あり云ふ古人の訓誨は、あらゆる社會の事業に、共通なる所の眞理であらうと思ふので

あります、之を實業的方面から觀察致しましても、世の成功者も諺はれる人々が
 辿り來つた経路は、終始一貫、本末を過まらなかつた努力の報酬で、夫の萬一を
 僥倖する、成金黨の行り方は、霄壤の差があるやうであります、更に藝術的方
 面より、其成功の例記を求めましても、猶且本末あり終始ありの階段を、急がず
 跌かず、攀躋の勞苦を嘗めた者であります、されば一ツ廉の演説家になります
 にも、此眞理の階段を踏まなくては、到底雄辯の人と呼ばれ、達辯の士も諺はれ
 る事は、不可能だらうぢやありませんか、兎角諸君のやうにお若い時代には、物
 事を輕視するの弊があるものであります、ですから……未だ聴衆の前に出でな
 い時は、政論演説何かあらん、況んや祝賀祭吊の式辭に於てをや、氣鬱萬丈當
 るべからずであります、イザ壇上の人となれば、忽ち聴衆に吞まれて仕舞つ

て、自分免許のデモステーターチスも、あはれ訥又平に化し、聴衆冷罵の爲めに、
 面を掩ふて壇を下るの醜態を演ずるものであります、諺の所謂習はぬ經は讀めな
 い云ふのが、此等に對して實に頂門の一針であらうと思ふ、で……諸君にし
 て、眞實演説家——否——雄辯達辯の人になりたいとお考へがあるならば、蓋し其
 本に反れである、本に申すは外でもありません、人格の昂上は勿論、思想の涵養
 に十二分の研鑽を要するのであります、人格の昂上や思想の涵養は、讀書の研究
 に俟たねばなりません、又民衆心理の状態を知るには、大家の戯曲、句調の莊
 重を學ぶには、各家の漢文を以て、參考資料とせられたならば、必ずや諸君は自
 得せられるであらうと思ふ、以上申上げた事が即ち本で、夫の手勢の運用や表情
 の應用などは、末の末でありますれば、本末先後を御取違へなさらぬやう

に、御注意がなくては不可ません、若し諸君が、既に本末に付ては、相當の努力を盡したから、最早一足飛びに、雄辯の人になれるものご、思召したならば、其れこそ大早計ご申さねばならない、以上の用意が完成しても、更に腹た三様の階級を踏まねばなりません、即ち一、放膽時代二、小心時代三、成功時代の三階級であります、放膽時代には、聴衆を指導するごか、聴衆を民衆化するごかは、到底庶幾すべきものではありませんから、成るべく多く場数を踏んで、聴衆に怯へぬやうになるのであります、次ぎに修辭や例話に心を用ひて、一言一句の末に至るまでも、上げ足を取られないやう、瑕瑾のないやう、心を用ゆるのであります斯くの如く一階級から一階級ご、段々進歩して、初めて成功期に入るのであります、既に成功期に達しますれば、私が曩きに申上たやうに、幾百千人の聴衆ごて

も、一枚三寸の舌で以て、或は泣かせ或は笑はせ、或は悲ませ或は怒せて、輿論の愚蒙を覺醒し、敵黨の僻論を粉砕するも、亦た容易なものであります、何卒諸君は志を権輿に承れまして、此地位に到達せられんごを切望するのであります。

(いゝ) 演 説 体

醫師會總集會に於て

諸君……今日(こんにち)は本會(ほんくわい)の規約(きやく)第何條(だいなんじょう)によりまして、諸君(しよくん)の總集(そうしゆ)を煩(わづら)した次第(しだい)であります、御多忙(ごたばう)にも拘(か)はらず、一人(ひとり)の缺席(けつせき)者(しや)もなく、御來會(ごらいくわい)の光榮(こうえい)を得ましたのは、畢意(ひつぎ)諸君(しよくん)が責任(せきにん)觀念(くわん)の致(いた)す所(ところ)で、實(じつ)に斯道(しきどう)發展(はつてん)の爲(ため)に、欣快(きんがい)の至

に堪へません、總集會開催の主意は、既に私より印刷物を以て、御通告申上げて置きましたから、諸君は充分御了解の事ご存じます、議題の項目は、二三重要な問題がありまするが、開議に先つて、一寸御相談申上たい事は、刻下世上の物議ごなつて居りまする、樂價の高低一條であります、之も議題の一つに加へて、諸君と共に審議致そうかとは、存じましたが、之に付て其高低を争ふやうな事は、御互の体面上、餘り褒めた事でもありませんから、私は僭越を顧みず、特に除外致しました次第であります、諸君が御熟知の如く、世界戦争の當時は、各種の藥品も、頗る暴騰を極めましたので、從來の徴收價格にては、到底耐へられない爲めに、終に値上を實行するの止むなきに至つたのであります、然るに平和克復と同時に、凡ての物價も下落の一方に傾きつゝあるの時に方りて、依然交戦當時の

薬價を、患者より徴收するご云ふのは、仁術を以て標榜する御互としては、大に考慮を要すべき事ではありますまいか、今日直ちに値下を断行すれば、御互の生活問題に影響するやうであれば、現状を維持するの必要もありませんが、前申上たやうに、諸物價も著しく下落して、今や一般生活の安定を見るに至つて居りますれば、此際一割二割の軽減は、尤も至當の事であらうご信するのであります、されば諸君にして、若し御異存がないと致しますれば、我組合一同は、來月一日を期して、之が實行に着手致したのであります、萬一諸君の中に、御異議があらますれば、貴重なる發言権を閑却する事は、不可能でありますれば、之も亦た議題の一つに加へて、諸君と共に討議する事に致しませう、聊か卑見を述べて、御賛否を満場の諸君に諮る所以であります。

鑄物業組合例會に於て

諸君……毎月十五日は、我組合の例會定日である事は、御承知の筈であります處が……未だ一回だに、組合一同の集合を見ることの出来ないのは、實に遺憾千萬ではありませんか、勿論半日の時間を、會合に費す云ふのも、御多忙の諸君にしては、或は割愛するに忍びないかも知れませんが、しかし例會で御打合する事は、事業の發展か、取引の圓滑かであつて、そして、自家當面の問題でないものはありませんから、諸君は寧ろ自ら進んで出席せなければならぬ筈であります、然るにいつも斯く缺席者の多い所以は、要するに自己目前の利益に汲々たるの餘り、他の利益は敢て顧みざるの結果であらうと信するのであります、苟も堂

々たる工場こうじやうの主人しゆじんにしては、無責任千萬の行動こうどうを申さねばなりません、よつて之が矯正策けうせいさくを致いたしまして、今後無斷で缺席するやうな會員には、一應警告を試むる事に致いたませう、若し警告しても、何等の申出がない時は、會則第何條に準據して、ドシ／＼除名處分を斷行して、組合の尊嚴を維持する事は、尤も至當であらうと信するのであります、否らずんば情實百出、聽ては本組合も有名無實のものになつて、卸値の協定も破壊せられると同時に、再び取引先の爭奪戦が起らないことも限りますまい、萬一斯る内訌が生じたなれば、小賣商の爲めに乘ぜられて、勝手な難題を持込まれて、不拂者の續出を見るに至るは、火を啗るよりも、より以上に明かであります、果して然らば我鑄物業界の打撃は、甚大であらうと思ふのであります、餘り忌憚なく申上りましたから、或は諸君の感情を害したかは

存じませんが、私は會長の責任を以てして、黙視するに忍びませんので、放て意衷を吐露して、諸君の御一考を煩す次第であります。

市場開場式の辭

近來市當局者が、物價調節の方策を以てして、各區に互つて、公設市場を建設せられましたのは、大に機宜を得たるものではありまするが、如何にせむ、建設の場所が、多く不便な地点でありまするが故に、當初の目的を充分貫徹することの出来ないのは、事情止むを得ない次第であります、然るに今回の新設に係る、大山八造君の市場は、同君の私有地で、而も市の中央に位して居りますれば、之に出入致しまする顧客の便利は、到底公設市場と日を同ふして語るべきものでありませ

ん、殊に設備の点に於きましても、上下水道の敷設は勿論、混雑を防ぐ爲めには出入口が四方に設けられてありますれば、例へ一時に多數の顧客が殺到致しましても、毫も行路の秩序を亂す憂ひがないのであります、斯の如く凡ての点に、用意が行届いて居りますれば、將來の發展隆昌を見ることは、私が今更多辯を費すの必要はないのであります、今日愈々開場式を舉行せられるに際して、昔く市の有力家を招待せられましたるが、不肖私の如きも、其末班に参列するの光榮を得ましたのは、誠に感謝の至りに堪へません、抑も本市場の組織は、株式と合資とが申しまするものは異りまして、全く大山君一個人の御經營に屬するものでありますれば、他の掣肘を受けるやうな事は、全然ないのであります、そこで大山君の理想……即ち中産階級生活の安定を謀るご云ふ事が、今後に放て愈々實現

し得らるる事ご信ずるのであります、此點から致しましても、吾々市民は、大山君に對して感謝の意を表さねばなるまいと思ふのであります、で………私は此機會を利用致しまして、一の希望を述ぶる事に致しませう、其れは外でもありません、本市場に開店なされた人々が、能く大山君の主意を体得せられて、協同一致聊か批難の聲の起らないやう、細心の注意を拂れんことを切望するのであります、聞くが如くんば、大山君は多數の開店申込者に付ては、充分人物の如何に着目せられて、夫々許可を與へられたと云ふ事でありませう、只今私が申上た事は、畢意杞憂に屬するごは存じますが、大山君の此美舉をして、萬遺憾なからしむる爲めに、一寸愚見を述べました次第でありますから、惡しからず御聞取を願ひたいのであります、私は之を以て今日の祝辭に代へます。

答

辭

今日當市場の開場式を挙げまするに際して、私が平生知遇を辱ふして居りまする諸君に、御案内申上げました處が、御多用中にも拘らず、斯くも多數の御來光を得ましたのは、私始め關係者一同が、厚く御禮申上る次第であります、只今又石目堅吉君より、多大の御賞賛を蒙りましたが、何がさて萬事不行届で、却て恐縮の至りであります、御注意の條項は、至極私も御同感でありますれば、關係者一同ご、終始歩調を共にして、御希望を満す考へであります、付きまして本市場の關係者諸君に對して、少しく私の存じ寄りを申上げたのであります、市場商人は行商人と異つて、其得意は大概固定的なものでありますれば、相手の如何に

よつて、價ひを二つにするやうな事は、全然不可能であります、従つて暴利を博するこか、奇利を占めるこか云ふ事は、望み得らるべきものでありません、いつのいつまでも、薄利多賣を以て、金科玉條と心得ねばならないのであります、商人として利益の薄いのは、或は心細い感じが起らないことも限りますまいが、市場商人は三百六旬、坐ながらにして、顧客を迎ふるのであります、之に反して行商人は、一定の得意を持ちませんから、漫然市中を徘徊して、萬一を僥倖せねばなりません、此点から見ましても、其勞逸の程度は、實に大したもののであります、されば其利する所が薄いからと申して、強ちに苦情を唱ふる事も出来ません、殊に行商人は、其日の風向次第では、アフレと云ふものがあります、市場商人はそんな變調なしに、樂々營業が出来ますから、畢竟するに収益の点に於

ても、行商人よりか、市場商人の方が、優に多くあらねばならない道理であります、よつて關係者諸君は、寤寐の間も公益と云ふ事を忘れず、本市場創立の趣意に、十二分の御力添へが願ひたいのであります、之より聊か祝意を表する爲めに別席に於きまして、粗飯を呈したのでありますから、萬望……諸君は御着席下さるやう、御仕度を願ひます、聊か御挨拶を兼ねまして、石目君の祝辭に御答へ申した積りであります。

市場紀念式の辭

今日は常市場の創立滿一週年に相當致しまするので、經營者の大山君は、それを紀念せんが爲めに、あらゆる階級の人々を網羅して、此盛典を舉行せられる事にな

りました、回顧致しますれば、昨年の今月今日は、私も開場式に参列して、一の希望を述べましたが、其希望よりも、より多くの発展隆昌を見るに至りましたのは、大山君の經營其宜しきを得たるは、申す迄もなく、關係着一同の諸君が、能く創立の趣旨を体得して、價格の公平に物資の精選に、多人の注意を拂はれた結果が、終に今日あるを致したものと信するのであります、其用意と努力の御成功に對しましては、私は衷心より祝福致すのであります、只今大山君から御示しに與りました、當市場滿一ヶ年間に於ける、顧客の出入數と、賣上金額の統計表を拜見致しますれば、顧客の出入數が幾千萬人で、之に因て得たる所の賣上金額は實に幾千萬圓の多きに達して居ります、斯る急速の發展は、之を全國の市場に對照致しましても、恐らく其比を見ることは難いのであります、今後更らに改善を

加へられましたならば、聽ては全國の市場經營者は、範を當市場に取るやうになるのでありませう、果して然らば、當市場創立の大目的も、此に至つて遺憾なく達し得られるのであります、古人曰く九仞の功を一簣にかぐと、大山君以下の諸君は、此語を事こせられて、有終の美を全ふせられるやう、私は更に希望する次第であります、今日の紀念式を祝福致しまする爲めに、之より大山君及び當市場の萬歳を三唱致しますれば、萬望……諸君も御唱和を願ひます、大山君萬歳、大山市場萬歳。

答

辭

本日の紀念式に對して、來賓諸君より祝文の朗讀やら、祝辭演説やらで、多大の

御褒めを蒙りまして、私共一同は實に愉快の感に堪へないのであります、一年の日子は敢て久しいとは申されませんが、此間顧客の人氣を失はず、市場の繁榮を維持して、収入の平調を保ちて参りますには、有体なお話が、私も俄かに鬢邊白雪を見るの苦心を重ねたものであります、殊に昨年の夏期は、不幸にして當市も、時疫の襲ふ所になりましたので、忽ち生魚の販賣は禁じられましたから、之が補給策として、人を縣外に派遣して、塩魚や干魚の買収に着手致したのであります、之が爲めに多大の費用と多大の手数をやしましたが、幸ひに市民諸君の御同情によつて、収入上には大した影響も受けず、怎うなり怎うなり、市場の体面は保たれたのであります、此苦き經驗によつて、其れ相當之に對應するだけの設備も、稍完成致しましたから、將來萬一にも斯る突發事件が発生致しましても、

昨年の如き心配は、最早あるまいと信じて居ります、今後こても御同情を加へられまして、當市場の益々隆盛の域に到達致しまするやう、御援助あらんことを御願ひ申すのであります、來賓諸君萬歳、萬々歳。

移轉祝の席上にて

幽谷を出て、喬木に遷るに云ふ古人の成語は、移して以て我が井上君の御移轉を祝福するの辭に致したのであります、只今此樓上より、四邊の風光を眺望致しますれば、一面には峨々たる山岳が聳へて居ります、又一方には帶の如く、溶々たる大河が、波を湛へて流れて居るのであります、之を以前のお住ひに比べましたならば、甚だ失禮な申分かは存じませんが、幽谷と喬木とのお話ではなか

らうと思ふ、市街熱鬧の巷を相距る遠らざる所に、斯くの如く山河の勝景を一瞬の下に收めるご云ふ事は、確かに人生清福の一つに數ふべきものでありませう、井上君が公退の餘暇に、或は會心の友と碁を圍まれるか、乃至は興到るに際して御得意の詩文でも、思構せられましたならば、必ずや以前に倍する、佳篇麗什を得られる事と思ふのであります、我々は既に此勝景に接しました計りでなく、斯の如き盛饗を辱ふせる以上は、詩なり文なり將た和歌なり俳句なり、來賓諸君と、互に應酬して、井上君の盛意に酬ゆる事に致したいものであります、聊か祝意を表するご同時に、來賓諸君の御賛成を願ふ次第であります。

石屋工賃値下反對協議會に於て

諸君……今日お集りを願ひました次第は、御互の死活問題ごも申すべき、工賃値下の一件であります、御互現在の工賃は、技術の巧拙如何によつて、多少の差等はありまするが、大概一日の工賃は、平均貳圓五十錢内外に過ぎません、之を大工左官の手間賃と比較して見ますれば、寧ろ低きに失するごも、高きに失する事は斷じてないのであります、殊に御互の勞働は、過激中の過激なるにも拘らず其従業時間も、大工左官ご同一で、而も待遇上何等の特典もないではありませんか、然るに得意先の人々は、其勞逸の程度如何も辨せずして、工賃の例を大工や左官に求めて、現在の工賃より、一割引を強ゆるが如きは、實に同情のない残酷

の仕方ご申さねばなりません、よつて御互は一致協力、反対運動を開始して、飽くまで現状維持に、力を注ぎたいのであります、幸ひ御互の職業は、同業者が少数で、いつも需用を充たすことの出来ない位でありますから、何も得意先の鼻息を窺つて、唯だ命之れ従ふの必要はないのであります、されど組合員の中には、家内が多人數で、一日の工賃位では、生活を營んで行く事が出来ず、得意先から若干かの借越をして、遣り繰つて居る人もないとは限りませんから、そんな氣の毒な境過にある人々に對しては、組合の積金から支出して、生活費の不足を補ふやうに致しましたなれば、不安の情に驅られる事のなからうと思ふのであります、何にしる此際は、勝つも敗くるも御互の結束如何にありますれば、よし同盟罷業の止むなきに至ることも、御互の主張は、斷じて曲けない事に、誓つて置きたいのであります。

であります。

生花會の席上にて

本日は花野咲造先生より、生花の競技會があるから、是非參觀せよこの御言葉でありましたから、好きの道ではありまするし、早速拜見に罷り出ました、付きまして先生より、何か皆様へお話し申上るやう、お態蕪がありました、何等腹案もない事でありますから、幾度もお断り申しましたが、何でもよいと云ふ、断つての御相談でありまするが故に、止むを得ず此壇に立つた所以であります、素人の私が、立人の皆様方に對して、生花の流派さか、花卉の插方なご、お話し申上げた處で、却てお笑ひを受けるばかりでありますから、寧ろ私は趣味の點から見ま

した、感想を述べて見たいのであります、さて一口に趣味を申しましても、其範圍は頗る廣いもので、夫の車夫馬丁の輩が、其日の勞働から産み出した、多少の賃銀で、一醉を買ふた餘り、端唄を唸り都々逸を謠ふて、元氣の回復を謀りまするも、趣味の一であります、勿論趣味としては甚だ下劣ではありまするが、彼等よりすれば、萬鍾の祿にありついたよりも、より多く快感を覺ふるに相違ありません、又烏鷺の鬪ひに熱中して、自家緊要の用事さへも打忘て、あたら一日を空過して、平然たる所を見ますれば、是れも亦た多大の趣味を感じるからであります、其他の道樂も一として趣味のない者はありませんから、各其好む所に従つて、研究致しまする事は、素より各人の自由ではありまするが、私の希望としては、同じ趣味の中でも、尤も高雅にして幣害のない者を選びたいのであり

47 演 講 と 説 演

ます、此意味からしても、私は生花を以て第一に推したいのであります、これは決して私が好む所に阿ねる所以ではありません、御承知の如く生花の研究に必要な器具も、至つて單純なもので、質素に甘んじて居りますれば、大して入費を要するものではありません、之に反して飲酒に耽るか圍碁に溺れるか致しますれば其耽溺の淺深如何によつては、不可測の禍害を醸さないとも限りません、されば相成べくは狸々の申し子となり、仙人の仲間となる事は、マアく見合した方が得策だらうじやありませんか、前述の如く生花は經濟上の得失ばかりでなく、精神の修養にも亦た大に資する所があります、之を床頭の裝飾として、雅懷を養ひますれば、いつかはなしに人格も昂上するものであります、斯る趣味を有せず、塵埃の推積に任せて、床頭何等の裝飾を施さない家庭の人々は、自然品格も下劣

でありますれば、心ある人は共に會話を交換するさへも厭ふやうになるのであります、更らに生花の効能を述べますれば、毎日若くは毎週、取り換へ引き換へ、花瓶や竹筒に挿入する、幾多の草木花卉に付て、其名稱性状をも、研究するの機會を得るのでありますから、博物學上の知識を昂上するこゝも亦た鮮少ではありますまい、殊に交際上より見ましても、其接近する所の人々は、大抵中流以上の者でありますから、同化作用によつて、劣悪な趣味なんかには、感染する憂ひはなからうと思ふのであります、斯の如く凡ての方面から觀察致しましても、生花の趣味は、尤も高雅にして幣害の乏しいものでありますから、私は特に前言を繰り返して、生花の趣味を第一として、賞揚する次第であります、然れども若し生花本來の目的を過まり、事々物々奢侈に流れるやうな事があつては、當に其趣味を

没却するのみならず、實に斯道の精神を傷ふ事になりますれば、皆様も三たび思ひを茲に致されまして、華道の神髓をお取達へのないやう、御注意あらんこゝを切望するのであります、之で私は責を塞いだ積であります。

遊獵團の出發に付て

我が遊獵團員諸君は、本日の休暇を好機として、野に山に目的地点を定めず、團隊名稱の表示するが如く、遊びがてらに銃獵を試みて、出發せられるのであります、私は此舉に對して實に欽羨の情に堪へないのであります、何となれば兎角團隊三名のつく者は、團長なる者を設けて、團員の一進一退は、一に團長の指揮を仰ぐ事になつて居ります、統一を謀る点から申しますれば、斯る組織も敢て

排斥する譯には参りませんが、發砲するもせざるも、一に團員各自の自由に任せ
 る以上は、責任分擔の義務がありませんから、故らに階級を設くるの必要はあり
 ません、要するに我が適する所を適するるので、本團隊の特色は之にあるので
 あります、團員諸君の中には、鹿を獲んご欲して、兎も獲ざる人もありませう、
 或は雀を獲んごして、却て鳩を獲るが如き異例もありませう、何にしる其獲るご
 獲ざるごは、團隊本來の目的でなく、原野の秀色ご、山岳の靈氣に浴して、浮生
 盡目の娛樂を縱まゝにしようご云ふのであるから、之に上起す樂みは、恐らく他
 には求められまいご思ふのであります、諸君が若し銃獵を以て衣食する人であつ
 たならば、什麼でありませう、逆も今日のやうに、娛樂的に山野を跋涉して、大
 自然に親む事は出来まいぢやありますまいか、されば諸君は思ひを此處に致され

まして、自己の享樂を感謝するご共に、夫の職獵者の辛苦を憐憫するの同情心を
 喚起せずには居られない筈であります、果して然らんには、本日の娛樂も、始め
 て意義あるものごなるのであります、否らずんば一種の假裝行列ご一般、たま
 く、行人指笑の標的ごなるまで、あります、私の諸君に於ける、素より宴遊一朝
 の交際でありませんから、出發に際して敢て苦言を呈する所以であります。

一週忌の吊詞

今日雪子嬢一週忌の御法會に際し、親しく御位牌を拜しまして、更らに新愁を喚
 び起すものごあります、雪子嬢は享年纔かに十有七歳に過ぎなかつたのでありま
 するが、學問技藝は申すまでもなく、德行衆に拔んで、能く御兩親に孝養を盡

されるのみか、隣里郷黨の人々にも、同情の念が濃厚でありましたので、誰一人雪子嬢の逝去を、哀悼致さない者はありません、然し雪子嬢の死は、形骸のみでありません、其精神は今猶死せざる事は、衆人の欽慕によつても明白であります、豹は死して皮を留む、人は死して名を留む云ふ、古人の格言があります、私は雪子嬢の逝去によつて、尤も痛切に此語を感じるのであります、御一門の方々には、餘哀未だ全く醒めざるの時に、哀悼の言を繰返しましては、却て御愁傷の情を挑發するやうなものでありますから、單に盛徳行事の一斑を述べて、吊詞を致します。

(いゝ) 講 演 体

感 激

諸君……私の演題は、茲に掲げました、インスピレーション云ふのであります、私は此語源に付ては、未だ研究致した事はありませんが、我國の學者は之を譯するに、漢字の感激でふ二字を、當て箝めて居りますが、這は頗る妥當であらうと思ふ、何となれば感激云ふ熟語は、感嘆感泣感動なご、は、大に趣きを異にするからであります、然るに近來の新聞雜誌を見るに、事体の輕重や、場合の如何も究めずして、感激でふ文字を、殆んど無制限に濫用する傾きがあります、我國民が果して此の如く事々物々に感激するものごすれば、早晚涙の種切れごなつて、眼球の回轉にも支障を來して、目から火の出るご云ふ、世の諺を實現せな

いごも限りますまい、成程感激も感情も高潮したのものには相違ありません、しかし理性を飛び離れた、感情の昂奮を混同すべきものでない事は、多辯の必要はないのである、そも感激の由つて生ずる所以は、什麼なものか申さば、其れは偉人か傑士か呼ばれる、人々人々の同化、事体其物の崇高純潔にして、而も天地も爲めに動き、鬼神も爲めに泣くの概あるものでなくては、相互の間に感激を云ふものが、起るべき理由はない、で……甘言以て人を籠絡せんとする者や、賣恩以て下を顧使せんとする者や、乃公は高位高爵を好餌として、他を盲従せしめんとする者には、感激以て一身を賭するが如き、忠良の人物は得られない筈であります、で……人々人々が感激して、殆んど神化し靈化するものは、決して富貴の爲めでもなければ、利達の爲めでもありません、今其適例を擧げて、一

寸説明を試みて見ませう。

諸君も御承知でありませうが、夫の殷の湯王は、身天子の尊きを以て、伊尹を有莘の野に訪ふたのであります、又蜀の劉玄德も、天下三分の一を掌握せる身を以て、三たび孔明を其廬に訪ふたのであります、伊尹に致せ孔明に致せ、當時は一の野民たるに過ぎなかつたのである、然るに湯王も玄德も、彼等の大人物なるを見込んで、托するに天下の重きを以てしたのであります、其寄托の精神は何であるかと言へば、萬民をして皆其所を得せしめんが爲めで、決して自家の慾望を満たすに云ふのぢやない、で……伊尹も孔明も、深く其高義に感激して、奮然身を以て君國に盡す事になつたのであります、感激の二字は、斯る事体の大なる者を使用すべきもので、夫の活動寫眞を見たり、賞與金を受けたりする場合に、二

コゝ然たる状態までにも、感激の二字を使用されては、感激の相場も今や愈々下落の極点に達した云はねばなりません、述べて盡きぬ点もありまするが、今日は之で御免を蒙ります。

伊藤公三 大石良雄

伊藤博文の勲業も、大石良雄の事功を對比して、之が批評を試むるも、亦た強ちの閑事業でもありません、大石は赤穂の門閥家で、幼少の頃から、嶄然頭角を顯はしたことは、碩學仁齋が彼を批評した一言によつても、顯然たるものであります、伊藤は秋の輕輩の家に生れましたが、其幼時の事跡は、別段取立て、お話する程の事も、ないやうであります、大石は山鹿素行に學び、伊藤は吉田松陰に

學んだのである、山鹿も吉田も儒者を以て甘んずるの人でなく、孰れも經世家を以て自ら任じた人であり、其着眼が既に一世を曠ふする位でありましたから其門下からも相當の人物が輩出したのであります、今其一例を擧げて見ますれば山鹿の門下よりは、純忠無二の四十七士を出して居ります、又吉田の門下からも幾多明治維新の功臣を出して居ります、此四十七士の俊傑中の俊傑が、大石良雄であるやうに、明治維新の功臣中の功臣は、伊藤博文であることは、言ふまでもありません、四十七士が仇家を附睨つて、多大の辛酸を嘗むるも、一人の變節者も出さず、復仇の壯舉より、割腹の斷末魔に至るまで、從容して迫らざるの態度は、よし天分の然らしむる所は言へ、其師山鹿に負ふ所も亦た大なりと申さねばなりません、吉田門下の山縣や品川や伊藤なごも、學問の淺深、才力の長

短はあつたにしても、皆吉田の衣鉢を受継いで、王政復古の大業に奔走した結果が、無限の君寵に浴した所以で、決して無償の産物ではありません、されば山鹿が育英事業の成功者であるやうに、吉田も亦た其成功者の一人たることは、争ふべからざるの事實であります、四十七士を、維新の功臣のやうに、天下の事業に使用するの機会がなく、之を仇打位に畢らせて仕舞つたのは、實に残念千萬であります、大石良雄が、復仇以前に、遊里に耽溺するの状を示して、巧みに敵の指目を避けた方法も、伊藤博文が、到る處に美人の膝を枕として、淫蕩爺の誹を受けても、毫も意こせなかつたのは、所謂明哲身を保つので、其變に處し時に處するの道に於て、又遺憾なし云はねばなりません、良雄が肥後侯の邸内で割腹して、天下幾千萬の民衆をして、同情潜々たる血涙を瀧がしたのこ、博文が晩年

哈爾賓に於て、刺客の爲めに横死を遂げ、其一生の歴史をして、光彩陸離たらしめて、世人に深き印象を與へたのも、殆んそ良雄に髣髴たるものがあります、之を品川が選挙干渉の爲めに、流血漂杵の慘劇を敢てして、明治の政治史上に、罪惡の名を留めた事や、山縣が今猶君寵を恃んで、大御所氣分を發揮するに比べますれば、彼は確かに一頭地を抽んでた所がないでもありません、良雄と博文の事功は、其活動の方面が全然異つて居りますれば、之を對比して優劣を立てることは、到底出来るものではありませんが、其君國の爲めには、寸点私心を挾まなかつた、忠誠の至情に至つては、二者恐らく擇ぶ所はなからうと思ふのであります、更らに其類似点を求めますれば、良雄の書畫に功妙なるやうに、博文も亦詩と書の二道にかけては、漫更ら棄てたものでもないのであります、殊に大に取るべき

所は、此二人者は孰れも恬淡寡慾にして、兒孫の爲めに美田を買なかつた、高潔の精神に至つては、已に神格の人であつたに申しましても、敢て諛評を云ふ者はありませんまい、博文の良雄に於ける、地の相距る百数十里、世の相後れたること二百数十年、而も其性格が稍一致する所以は何であるか、申しますれば、山鹿も吉田も陽明學者で、知行合一主義を以て、門下を指導致しましたから、其感化を受けた二人者の性格が、明せずして一致を見るに至つたのでありませう、之を要するに大石良雄は、理性の人で、伊藤博文は感情の人であります、理性の人は言高氣勁、能く群下を威服せしむるの盛徳がありますから、堀部や竹林の如き荒武者も、良雄に對しては柔順猫の如くであつた所以であります、之に反して感情の人は、多涙多感、藝者の空涙にも、忽ち同情を寄與するやうな弱点がありますか

ら、馬關條約締結の際にも、老狸李鴻章の爲めに醜弄せられて、終に三國干渉の浮目を見たる次第でありませう、併し聖人にあらざる限りは、到底人間に完全を望むことは不可能でありますれば、良雄の如き博文の如きも、先以て偉人傑士に賞揚致さねばなりません、二人者に對して、強いて其優劣を定むることは、私の好まざる所でありますから、諸君は各其見る所に由て、それを決定すればよいのであります、私は壇を下るに臨んで、諸君の御靜聽を感謝致します。

以呂波歌と弘法大師

諸君………諸君は我國の假名に付て、御研究なされた事がありますか、片假名は吉備真備が、漢字の扁旁を取つて組織したもので、平假名は弘法大師が、涅槃經

の諸行無常、是生滅法、生滅滅已、寂滅爲樂の四句を敷衍して、構成したものである云ふのが、俗論の一致する所であります、以上の假名が、果して吉備公や弘法大師の手に就つたものか否かは、史實の徴すべきものはありませんから妄りに作者を断定するここは出来なない筈であります、元來我國には、漢字以外に、思想を表示する所の文字がなかつたのでありますから、此發明は確かに空谷の登音であつたのであります、若し之が何人の手かで、履仲帝の史官設置の當時か、乃至は元明元正二帝の頃にでも、發明せられたなれば、史實の文体も、窮窟な漢文に倣はずして、流暢な和文体で、自由自在に作成するここが出来たのでありませうが、其發明が遅れたばかりで、古事記や日本書紀の編纂にも、何等の効果を寄與するここが出来なかつたのであります、併し文化未開の時代に、太安麿や舍人

親王が、あれだけの著作を大成せられました功績に對しては、大に感謝の意を表さねばならないのであります、何にしる邦語を寫すに、漢文の力を借りる事でありますから、所謂意到りて筆從はざるの点がありますのも、亦た止むを得ない次第であります、兎にも角にも假名の發明によつて、我邦の文化史上に、一大生面を開展した事は言ふまでもありません、諸君も御承知でありませうが、吉備眞備は、孝謙帝の天平勝寶六年に、遣唐使に選拔せられた程の人物であります、當時彼に頡頏すべき學者は、阿部仲麿を除いては、誰一人なかつたのであります、で……片假名盛行の年代から、段々推算して、其發明者を吉備公であらうと、斷定を下しますものも、無理からぬ事でありませう、吉備公の事業としては、赫々後代を照らす程のものもありませんから、君子は人の美を爲すの寸法で、此發明權

を吉備公に附與して、紀念の材料とするも、敢て差支ないものご信するのであります、若し夫れいろは歌に至つては、あれだけの崩し方は、到底凡庸の企及すべき事でありませんから、以上の論法によつて、草聖と呼ばれる、弘法大師の産物とするも、大した批難はあるまいぢやありませんか、しかし弘法大師は、斯の如き遍々たる文字を須るす、淳和帝の天長年中に、眞言の大席を翻して、我宗教上に一大革命を起した程の高徳でもあり、且つは我國の建築學上にも、多大の貢獻をせられたのでありますから、此發明が誰であらうご、大師の盛徳大業には、何等増損する所はないのであります、此講演が多少にても、諸君の御參考になりましたなれば、私は大に満足致すのであります。

稻荷大明神と狐の因縁

近頃内務大臣は、各府縣の知事に對して、敬神尊佛の念を鼓吹して、國民思想の動搖を防ぐべく、頻々通牒を發するやうであります、今や一般國民は、生活の不安に脅かされて、一日の休養さへも、不可能の場合に、神社佛閣の參拜を強要して、信仰の昂上を謀らんごしても、恐らく何等の反響もあるまいご思ふ、勿論敬神尊佛ご云ふ事は、主意に於ては、至極賛成であります、實行を見るごこの出来ないものご致しますれば、繪に書いた牡丹餅ご一般、空腹を凌ぐには、何等の功果ないご、同様だらうぢやありませんか、先づ其れよりか、内務當局者の取るべき道は、國民を生活の不安から救ひ出して、徐ろに信仰に導くのが、急

務中の急務であらうに信するのであります、諛達や諛告で、似而非信者や、俄か道心を急製したからこゝて、思想の動搖は、決して防げるものではありません、別して我國の憲法には、信仰の自由を許してある位ですから、不信向を處罰する法律もないのであります、例へば神も佛も信じません、傲語するものがあつても、神佛不信仰罪云ふ、條例がない以上は、又如何にもするこゝは出来ないのであります、元來此信仰てふものは、如何にして湧き出るか申しますれば、大抵人力の如何にもすべからざる場合に、神なり佛なりに、祈願祈禱して、何等か神靈の應報があつて、初めて信仰の門に入る云ふのが、民俗一般の傾向であります、之に反して何等の應報を求めず、生前の人格に傾倒して、敬虔の念を捧ぐるやうな人間は、千百人中僅かに一人二人であらうと思ふ、多くは皆利益渴望の

連中でありますから、流石のお釋迦さんも、當惑の餘り、終に方便を設けて、お茶を濁した所以であります、恁んな事を際限なく、喋舌て居りましたは、お稻荷さんご狐の話が、段々後になるばかりでありますから、急轉直下、話頭を本問題に及す事に致しませう。

只今此處にお集りの諸君は、別段内務當局の警告を待たず、神や佛に對しては、必ず相當の御信仰があるのでありませう、よし全然ないにしても、神の敬すべく佛の尊ぶべき事は、無論御承知だらうに信するのであります、國民信仰の標的に立たせ給ふ神様は、八百萬てふ大多數でありまするが、一般的から申しますればお伊勢様や出雲様、乃至は不動様かお稻荷様が、一番信者の多いだけに、何處の神棚にも、大概安置してあるやうであります、お伊勢様や出雲様は、親神中の親

神様でありますから、一寸したお願事を煩し奉るのは、勿体ない云ふでもありませんまいか、普通の場合には、不動様か稻荷様に、御厄介を願ふやうであります。そこで何處の不動堂でも、稻荷宮でも、賽者殺到の有様で、いつも香火の絶間はないのであります、如何に靈顯の著大なるか、如何に信者の多數なるかは、此一事に徴しても、お判りの筈であります、不動様もさる事ながら、稻様荷の人氣も來ては、又格別なもので、藝妓娼妓の仲間までも、朝夕禮拜を怠らすに、千客萬來の非望を祈つて居るのであります、此人氣ある稻荷様は、一体如何なる神様でありますか、先づ試みに狐が稻荷か、稻荷が狐か云ふ、疑問を擧げて、民俗の解答を求めましたならば、十中の八九までは、稻荷に狐は、分あつて分なく蒙々味々たる答を得る事でありませう、之では迷信云はれても仕方がないぢや

ありませんか。

諸君……驚く勿れ、稻荷様は御本体のない、理想の神であります、もごく稻荷てふ語源は、稻生の意義であつて、宇迦御魂を祭つたものであります、宇迦は食物の轉化したもので、即ち食物の神様であります、御互人間が一日片時でも必要缺ぐべからざるものは食物である、其食物を不足なく供給して下さる神様である以上は、争でか崇敬せずに居られませう、饅頭や赤飯位を献上して、其れで報恩の萬一を盡せるものゝ速了致しましては、神罰の程がソラ怖ろしいのであります、如何に事理を辨ぜざるの致す所は申しながらも、夫の藝娼妓の連中が、千客萬來を祈つて、自己の幸福の要求するなんかは、そも馬鹿の骨頂で、稻荷様の御迷惑も、さぞや三拜祭し奉るのであります、さらば狐は稻荷様の眷族である

か云ふ、疑問が起るべき筈である、之は神佛混淆の時代に、時の賣僧奴等が、俗間憑狐の迷信説を利用して、狐を稻荷神社の神壇に配祀したもので、稻荷様には何の因縁関係もないものであります、私は些々狐の悪口を致しましたから、或は狐に魅せられるかも知れませんが、一寸眉毛に唾を付て、此壇を下ります。

遊戯と遊興の辯

諸君……日本人のやうに、早熟早老の弊に陥り易いものは、若返りの方法として、私は大に遊戯や遊興を奨進して、元氣を鼓舞したいのであります、青年以上の者に對して、幼稚園で行つて居るやうな、小供らしいものは兎も角として、繩飛か蹴競べもか、又は打球見たやうな事は、青年は申すに及ず、中老でも老人

でも、折があつたら、少年や青年の群に投じて、共に遊戯を爲すことは、不老長壽の何首烏を服用するよりも、某博士の發明に係る、若返療法の施術を受けるよりも、保健延齡の策としては、最大良法であります、それかあらぬか歐米人などは、満頭白雪を戴くの老境に達しても、兒孫と共に嬉々として、遊戯に餘念ないのであります、一体老人のみの集會は、話も自然地味に流れて、爺臭くなるものでありますから、寧ろ少年を相手として、其活潑の氣分に肖かる事は、恃り體質の健全が保てる計りでなく、消磨せる精神を復活させるに於て、多大の効果あるものであります、此意味に於て、私は中老以上の人々に向つて、大に遊戯を奨励すると同時に、遊興も亦た併行せんことを希望するのである、私の遊興に申しまするのは、一席の遊びに若干かの遊興税を要する、酒食の遊興ではありませ

ん、各自職務の防害にならない限りは、公休日を利用して、山に登るか野に遊ぶか、或は川へか海へが、釣魚に出掛けるか、舟遊を試むるかして、大に浩然の氣を養ふて、順逆に處するの素地を作つて置きたいのであります、人は順境の時、左程の伎倆はなくとも、何事もトン／＼拍子に成功するものであります、イザ逆境に陥るが最後、何等精神の修養ないものは、忽ち失意落膽、悶々の情に堪へなくなるものであります、精神の修養は、強ちに讀書研學にのみ限つた譯ではありません、山川を跋涉するか、原野を逍遙するかして、自然大に接し自然美に觸れて、天空海濶の氣象を養ふのも、亦た好個の精神修養であります、之を夫の薄暗い奥坐敷で、烏鷺の闘で可惜一日を消費するか、旗亭や青樓の一隅で、藝娼妓相手に、情話喃喃々痴態を演ずるに比べますれば、其得失は果して如何であ

りませうが、故に私は飽くまでも、無邪氣にして幣害のない、遊戯と遊興とは諸君と共に勵行したいのであります。

十六夜櫻と芳野櫻

諸君……人の好尚に云ふものは、變れば變るものであります、夫の周茂叔の傑作となつて居る、愛蓮説を讀んで見ますれば、草木百卉の中に、蓮は濃艶にして氣高いものはないに、激賞してあります、我邦の詩人は蓮は佛臭いの俗惡の云つて、詩歌の題詠にも上さないのであります、好尚が斯くまでも一方に辟して仕舞つては、眞に風流を解する所以ぢやありません、處が……櫻ばかりは、時代の變遷や、國土の異同に關係なく、均しく雅俗の愛賞する所となつて居

りますのは、流石に我大和民族の精神を、代表するに足るべきものだと思ふのであります。

諸君……一ト口に櫻を申しますが、其花の種類や、其種の來歴を、一々お話し申上げるにすれば、或は五六時間を要するかも知れませんが、私は成るべく時間節約して、興味ある方面のみを、申上げる事に致しませう、先づ花の名所としては、吉野、初瀬、嵐山は申すに及ばず、常陸の櫻川、若狭の青羽山などが、尤も古くて尤も名高いものであります、武州の東叡山、墨陀川、御殿山、飛鳥山、小金井などは、孰れも貞享元祿の頃に、吉野より移植したものでありますから、其年代に於ては、大して古いとは申されませんが、花の名所云ふに於ては、前者ご擇ぶ所はありません、此外陸奥の吉野、山城の花頂山、大原野、仁和寺、清

水なき、一々数へ立てたならば、殆んど際限もないのであります、櫻に名所のあるやうに、櫻に名花のある事も、序に申上度度である、月夜櫻云ふのは、夫の大職冠鎌足公が、月夜に陸奥の都々古山に登つて、其地の老櫻を御賞玩になつたに因んだものであります、又旌櫻と稱するものは、八幡公義家が、東征凱旋の砌に、常陸の太田郷に駐屯せられた時、櫻樹の旌竿を遺棄されたものが、不思議にも萌芽を出して、大きな牛を蔽ふほぎになつたので、此名を得たる所以である、水戸の義公は、其舊跡に祠堂を設けて、八幡公の父子を祀られたので、今は名所の一つになつて居ります、義公の作に係る、七言絶句を記臆致して居りますから、茲に朗吟致して見ませう。

蔽芾山櫻公所爰。

香徳春風流二世末。

根 如臥龍花始旌。

義家芳名逾諸葛。

義家で思ひ出しました勿來關も、櫻の名所でありましたが、古木は今や悉く枯れて仕舞つて、昔を偲ぶ便もないやうになつたのであります、義經の愛妾靜御前の手植に係る、野州野澤村の靜櫻、伊豫の孝子の祈禱によつて、毎年正月十六日に開謝する、十六夜櫻、山城大井河の北なる小督櫻、武州澁谷の金王櫻や播州の大石櫻の如きは、其人の名と共に今猶芳香を傳へて居りますのは、實に床かしいではありませんか、之より少しく風流の方面にお話をして見ませう、嘗て藤原頼通も、藤原公任も、禁中に落合つた時、春花秋花に對して、品評を試みた事がありました、頼通は春の櫻花、秋の菊花は、百卉中の冠弁である、主張致しまするに、公任は頭を左右に打振り、否こよ否こよ、梅花の清標高潔には、到底

櫻菊なごの及ぶ所でないに、反對致しましたので、果ては口論にも花が咲いたこと云ふ事もあります、又村上帝が觀櫻の御宴を催ふし給ひし時、菅原文時が、序文を承つた事があります、其句は、

誰謂水無心。

濃艷臨兮波變色。

誰謂花不語。

輕漾激兮影動唇。

之は人口に膾炙して居りますから、諸君も御承知の事でありませう、降つて源平の戦に、平忠度が旅宿の花を詠じて、千載風流の名を留めましたのも、此花の爲めでありませう、三宅緝明が、櫻花詩序の一部分を朗讀致します、之を見れば櫻の史實は、一目瞭然たるの思ひがあります。

神代の初め大山祇の女降つて此樹にあり、因て號して木花開邪姫と云ふ、

人皇の世履仲帝舟を内池に泛ぶ、此花飄つて手杯に入る、因て其居を號して稚櫻宮となす、而して平城帝詩を賦し、賞するに光四方を照らし、笑ひ三陽に亘るを以てす、嵯峨帝始めて之が爲めに宴を設け、後冷泉新に之が爲めに殿を起す、其種を秋津洲に降し、而して賞を大宮人に受る蓋し亦た尙し。

花も半開が尤も見頃であります、下手な演舌は短きを以て上乘に致します、よつて私は之で御免を蒙る事に致します。

衣裳の變遷

私は嘗てアダム、イフの扁額を見た事があります、彼等は天上天下ムツター一人

で、誰悼るものもありませんから、神の創造其儘、眞の赤裸々に満足してよい筈であります、然るに股間の一物を、太陽の光線に照らすことは、勿体ないと思つたか、耻かしいと感じたか、素より想像の出来ない事ではありますが、何しろ木葉を編んだものを、腰巻の代用に致して居ります、西洋の學者は、之を人類衣裳の濫觴と申すかも知れませんが、腰巻の發明位は、餘り聲を大にして自慢する譯には参りません、古事記に就て衣裳の起原を探つて見ますれば、伊邪邦伎尊、伊邪邦美尊が、夫婦の交をお結びになつた後に、女神は黄泉へ御退轉になつたので、男神は戀々の情に堪へさせられず、跡を慕ふて御出掛になりましたが、女神が餘り穢しておはしました爲めに、男神はホト／＼愛想をつかし給ふて、御歸りになつた時、身縋云ふ事をなさつたのであります、其折御脱葉になつたもの

は、衣、裳、帶、褌、手纏、冠なごでありました、之に因て觀れば、神代當時、業に己に立派な装束が備つて居たのであります、此一事を以てするも、我日本は神國と誇稱するに値ひするのであります、更らに杜氏通典を繙いて見ますれば、恁んな事が史されてあります、「上古は毛衣皮を胃る、後代の聖人鳥獸の冠角を見、依て冠纓を作る」成程上古は恁んなものであつたに相違ありません、人智が段々進歩するに従つて、麻、殼、藤なごの織皮を以て、身体を掩ふやうになつたのでありませうが、我國には神代より、養蠶の道が開けて居りましたから、天津神の方々は、絹服を召させ給ひ、臣民は麻か藤かの織皮で織りなしたものを着用して居た事と思ふのであります、處が開化崇神垂仁の御世となりましては、海外との交渉が始まつて、支那印度朝鮮あたりから、段々染色の衣料が輸入された

爲めに、質朴の美風も、忽ち變じて華美となつたのであります、それから推古帝の朝に至りまして、冠位の制度も備るにつれて、裁縫も自然改善を加へられて、大に見るべきものになつたに相違ありません、聖徳太子の頃には、既に我國に於て、錦繡綾羅なごが、盛んに産出した所を見ますれば、衣服の發達は、實に驚くべく早いものでありました、爾後幾千百年の其間には、素より多少の消長がないでもありませんが、何しろ衣食住の三つは、人類の生存上、一日も忽諸に付すべきものでありませんから、自然の必要上、上下心を用ふる事が、多大でありますので、終に今日あるに至つたものと思ふ、現今では盛んに洋服の便を唱ふる者があります、住宅の改善を謀つた後でないに、未だ容易に此説に左袒は出来なハのであります、日本服には日本服の美点も特点もありますから、必ずしも洋服

に限つた事はありません、其裁縫だに現代的生活に適合するやうに、改善を加へましたならば、價格の低廉さ、裁縫の容易さから申しますれば、寧ろ日本服の方が、便利調法ではありますまいか、此意味からして私は日本服に左袒するのであります。

石川五右衛門と鼠小僧

石川五右衛門が、泥棒稼業に従事してから、湯鑊の刑に處せられるまでは、可なりのの歳月を経過したやうであります、其間何程の財寶を盗んで、何程の榮華に耽りましたか、其邊の所は、當時の豫審調書や、裁判言渡も見ない事でありませう、具体的なお話は、迎も出来ないであります、一体斯る曲事を語るは、士君

子の耻る所でありまするが、それを臆面もなく、諸君の御面前に於て、公然とお話申上まする所以は、私にも多少の意見があるからであります、石川五右衛門は、竊盜の罪惡である事も、國家の諛の尤も恐るべき事も、よく心得て居たのであります、さればこそ數千人の部下を有するにも拘らず、務めて人の指目を避けて、白晝は寺院の天井裏に潜匿して、深夜竊かに姿を現はしたものであります而して其竊取の目的は、己れに奉ずる爲めではなく、多く窮民を救助する爲めでありましたから、當時は勿論今日の下級社會にも、相當の同情者がある所以であります、然るに近頃世上の現象を見ますれば、大厦高樓を構へ、侍妾數人を蓄へ、錦衣玉食の榮耀を擅まにして、一舉に數百萬金を竊取する人間もありません、其得たる所の金銭は、自己一身の計に濫費して、社會民衆の迷惑は、毫も顧みない

いのであります、甚しきに至つては、顯官大職の地位を應用して、請する人物さへもあるのであります、其竊取の巧妙なる、暮夜に於てせずして白晝に公行するのである、其贓物の分配を致しますにも、深夜人定まるの時に於てせずして、出入頻繁なるホテルの樓上で、敢行するのであります、之を大正の石川五右衛門云はんか、五右衛門程の俠氣なきを如何せんやである、五右衛門は我國大泥棒の標本として、今猶世人の指彈を免れませんが、大正の五右衛門輩には、其地位の高きに恐れ、其背後の權勢家に怯へて、之に湯鑊的制裁を加ふる事の出来ませんのは、制度の不備か、人心の萎微か、實に痛嘆の至ではありませんか、之に就ても私は更らに俠賊鼠小僧を、聯想せずには居られないのであります、俗間の傳ふる所によれば、彼は徳川幕府の綱紀漸く弛ぶるの時に生れたの

であります、當時の社會は恰も今日のやうに、貧富の階級が著しく懸隔致しまして、富める者は益々富み、貧しき者は愈々貧しく、衣食に汲々たる細民は、一朝病氣其他の災難に襲はるれば、忽ち兄弟妻子離散の慘狀を呈したものであります、然るに富める者は之を救ふを肯せず、官も亦た之を棄てて顧みざるの有様であつたのであります、彼が一片の俠骨は、到底坐視するに忍びずして、エ、遮莫よ、芳を百世に流す能はずんば、寧ろ醜を萬世に貽すべしと、心機一轉、終た梁上の君子になつたものでありませう、爾來富豪の金を盗んでは、窮民に散じ、散じては復た盗み、殆んご江戸八百八街を横行して、時の刑史をして、心膽を寒からしめたのであります、晩年捕吏の圍む所なるや、彼は潔く自刃して、累を受惠の窮民に及さなかつた、周到なる用意は、泥棒ながらも實に見上げた所があ

つたのであります、之を夫の散々悪事を遂行して、毫も其非を覺らず、務めて法網を潜らんごする、今日の陋劣漢に比べますれば、私は却て鼠小僧の男的氣魄の存するのを、キビく敷感するのである、聊か時事に感ずる所があつて、斯んな變挺古の題を擇んだのであります。

一字千金の説

鍊字篇に……善く文を作る者は、萬篇に富みて、一字に貧しご云ふ事が、書されてあります、此意味は千言萬言、縦横に書き流す程の筆達者でも、唯だ一字の使用に困却して、一寸考の付ない場合を言つたものであります、勿論今日の新聞雜誌のやうに、單に達意を目的ご致しますものは、一字一句の推敲に、餘計な

時間を費すやうな事は、到底出来ないのであります、それかご申して用字粗笨に流れて、詞藻の乏しいものは、其立論は如何に堂々たるものであつても、人の感興を喚起するご事は、不可能であります、柳子厚が……其言鄙野以て用に備ふるに足るご雖、而も其文采を闕けば、以て其聽を竦動して、後學に誇示するに足らずご申しましたやうに、文采ないものは殆んご見るに足らないのであります、之に付て思ひ浮べる事があります、宋の范文正公が、嚴先生祠堂記の中に、先生の徳は山高く水長しご云ふ語があります、之を李泰伯に示して、批評を求めました處が、泰伯は一誦三嘆、此文一たび世に出でば、必ず喧傳するに相違ない、只だ惜らくは一字妥當ならざるものがあるご申しましたので、文正公は照然しごして、そは又何の字であるかご念を推しますれば、泰伯は雲山河水の語、如何にも

辭義は博大である、之を承るに、徳の字を下されたのも、頗る手際ではあるが、徳の字を改めて、風の字に作らば、更らに意義の雋永を加ふべしと、申しましたするに文正公は忽ち坐を下りて、君は實に我一字の師なりと、敬服したそうであります、泰伯は孟子の伯夷柳下惠の風を聴くの一段によりて、風の字を考付たものであることは言ふまでもありません、殊に韻文に來ては、一字の改竄によつて、精采あり活氣あるものなる事は、珍らしくないのであります、例へば古人の詩に……絶頂の長風客衣を拂ふ。烟霞落日望み依稀たり。故園首を回らせば三千里。海色蒼々鳥獨り飛ぶと云ふのがあります、一誦すれば孤客郷を懐ふの餘り、鳥の翱翔自由なるを羨んで、己れも亦た鳥のやうに翼があるなれば、飛んでも行きたいと云ふ、切々の情緒が、言外に溢れて居るのであります、しかし獨の

字は何となく、淺易でありますから、古人は推敲數番して、空の字に改めたこと云ふ事である、此空の字こそ實に千金の價値あるものでありますから、諸君も大に玩味されて、此間の消息を悟られる事を希望致します、以上はほんの一二の例証であります、總じて作文を志す者は、達意のみを主とせず、用字の裝飾にも、注意を拂ふやうにせねばならないのであります、何はさて先づ名家大家の文を多く讀んで、多く作り多く自ら改めるのが、作家となるの秘訣でありますから私は衷心より此事を、諸君に懇進するのであります。

(ろ) 演 説 体

露 店 設 置 期 成 同 盟 會 に 臨 みて

諸君……近來都市改善の叫びは、一の流行りなつたやうであります、之は少しく考慮を要すべき、問題だらうと思ふのであります、總じて物の改善を謀るに云ふ事は、名義上批難すべき点はないやうであります、能く其歴史や其舊慣の如何を討究せずして、徒らに世の風潮に追隨するこゝは、決して我都我市を愛する所以ではありません、夫の東京、大阪、横濱の如く、人口日々に増加し、文化月々に進歩する大都會にあつては、いつまでも舊態を固守する譯には参りませんから、經濟上多大の犠牲を拂つても、之を斷行するの必要もありませんが、我市

の如きは、大に其事情を異にする点がありますから、俄かに不急の工事に着手して、地方經濟の紊亂を來すが如きは、私共は斷じて左袒するこゝは出來ないのであります、勿論一二等の道路に相當する、往來頻繁の地点は、家屋が粗雑で、而も道幅の狹隘でありますれば、外觀の美を損するのみならず、危険の憂ひがないでもありませんから、民心の傾向一つでは、之を取拂つて宏壯の建物を築き之を取擴げて道幅の擴大を計るのも、公益上亦た止むを得ざる事で、私共も敢て異論はありませんが、商業も閑散で、通行も亦頻繁ならざる場末の地点までも取拂つて、目拔の場所同様に、外觀を飾らんとするは、深く市民の利害を思ふ所以ぢやありません、市當局者や市會議員は、何の見る所があつてか、市の所有に係る某町一帯の街巷を取拂つて、殆んど曠野の状態となしたのであります、

此數千萬の地坪に、當局者の理想に適合する、宏壯の建築物を見ることは、市の今日の經濟狀態から推想致しますれば、到底短日月の間に、完成を見ることは、至難であらうと思ふのであります、そこで此際此隙地に、露店を開設して、務めて顧客を吸収する方法を講じましたなれば、土地の繁榮を招來するこども、出來やうかご存じまして、色々運動の結果、關係地域住民の諒解も得ましたので、愈々露店設置の申請書を、市當局に提出致しましたのであります、然るに如何なる理由があつてか、當局は反對の意向を洩らして、一向に許可を與へないのであります、之は私共が少し穿ち過ぎた推測かも知れませんが、當局の考へましては一旦露店設置を聽許せば、イザ建築ご云ふ場合に、種々の苦情が簇出して、建築の時機を逸するやうな事があつては、市としての折角の計畫も、之が爲めに頓挫

せないごも限らないから、寧ろ申請書は握り潰して、形勢の變化を見るにしかすご、納り返つて居るかも知れませんが、果して然らば、當局は未だ能く申請書の内容を、熟覽せない者ご云はねばならない、何ごなれば私共の申請期限は何年何月何日限りであります、其期限に及んで、若し市より撤廢を命ぜられましたなれば、私共は之に對して、何等苦情を唱ふるものではありません、あたら數萬千の地坪を、雑草の繁茂に任すよりも、私共の願意を容るゝ方が、市の体面上から見ても、將た市の經濟上から論じても、ドレ程都合かも知れないのであります、假りに一坪一ヶ月の賃貸料を五錢ご見積りまして、總坪數より得る所の地料は、實に幾千百圓の多きに達するのであります、此幾千百圓の地料を、市の衛生費なり水道費なりに繰り入りましたならば、市としての經濟にも、多少の餘裕が

生ずる譯であります、之をしも顧みずして、露店設置に反對するのは、市當局は實に私共の公敵云はねばなりません。

諸君……此公敵に當るの方法としては、御互結束を堅くして、此同盟會の氣勢を擧ぐるに共に、新聞に雑誌に、御互の意衷を披瀝して、大に輿論を喚起するに務めるのが、最善の手段であらうと信するのであります、區々たる運動費の如きは、敢て惜むべきの時ではありません、私は委員の責任を致しまして、是迄の事情を申上るに共に、聊か卑見を吐露して、諸君の憤起を希望する次第であります。

六週間現役入隊者を送るの辞

本日我櫻井尋常小學校訓導大井勇君が、六週間現役兵として、大阪師團へ入營せられるに際し、私は祝辭代りに、一の希望を述べたいのであります、さて歐洲大戦の慘禍は、前古未曾有でありましたが、又其半面には驚くべき科學の進歩を見るに至りましたのは、稍人意を強ふるに足るのであります、之に伴ふ譯ではありますまいが、全世界を通じて、危険思想の瀰蔓せる事は、實に怖るべき現象であります、我國は歐米各國に比べますれば、未だ左程にも思はれませんが、從來我國の誇稱に値ひした、忠君愛國の觀念が、今や減退の兆候を示しつゝあるのは誠に遺憾に堪へないのであります、現に一昨年よりも昨年には、徴兵忌避者が著

しく激増致しました一事に徴しても、如何に奉公の念が、稀薄に傾いたかが判るではありませんか、斯る不祥事を醸成する所以は、要するに生活の不安から来るものご、華奢の弊風に陥る、二つの原因が、此悪傾向を産んだものだと思ふのであります、生活の不安を救済し、華奢の弊風を矯正するのは、政治家の責任であります、其根本的改善を謀るご云ふ事は、什麼しても教育者の力に俟たなければならぬのであります、教育者が朝夕忠君愛國を口にして、児童指導の任に膺つても、實行が之に伴はなければ、到底児童を感化することは出来ないものであります、我大井君は、今回幸ひにも、入營の光榮を得られて、身親しく奉公の實を示されるのでありますから、其児童に及す所の影響も、亦た多大ならんご信するのであります、六週間ご申せば、時間に於ては、素より短日月ではあります

が、大井君は學問智識の二つに於て、已に尋常の入營者ごは、大に異なる所がありますれば、軍隊智識の享有に至つても、亦た見るべきものがあらうご思ふ、されば歸來……其得る所の智識経験を、児童教育の上に、活用せられましたなれば、必ずや眞の忠君愛國の至情を養成するごこが出来ませうご思ふのであります、私は此意味に於て、愈々本日の行を壯にして、君が前途を祝福したいのであります、私は之を以て本日の送辭に代へます。

(ろ) 講 演 体

羅馬字と漢字の得失

諸君……調査好きの現内閣は、今度又あらゆる階級の人々を網羅して、國語の

調査を委託する事になりました、這是諸君も新聞の報道によつて、定めし御承知の事ご存じます、斯る機會のある毎に、いつでも思ひ出したかのやうに、擡頭致しまするのは、羅馬字の鼓吹者であります、彼等が主張の論旨は、甚だ淺薄なものであります、一寸其二三の要点を擧げて見ますれば……我國の假字では、外國語や朝鮮語や琉球語などは、或部分に限つては、到底其發者を寫せるものではないが、之を羅馬字の力に借れば、原語其儘容易に寫し取る事が出来るから、將來の國字國文としては、之を採用する方が、文化促進の上にも多大な効果がある、しかのみならず筆記する場合にも、字畫が少くないから、如何なる長篇を綴るにも、如何なる發音を寫すにも、手間取る憂ひがない、斯る幾多の特色があるから、是非とも之を採用して、歐洲の文明に追隨するやうにせねばならないと云ふ

のが、いつもの紋切形ごなつて居るのであります、私共の考へご致しましては事情の許す限りは、成るべく我國の國字國文を改善して、諸外國にも之を使用さして、世界言語の統一を計りたいのであります、然るに彼等は多少の不利不便を名ごして、一も二もなく羅馬字にたよらんご致しまするのは、早い話が内の親爺は、些ご八釜敷家であるから、之は打棄つて、寧ろ隣の好々爺に、親ごし事ふる方が、怎んなに氣樂かも知れないと云つたやうなもので、事理を辨ぜざるも亦た甚しいご言はねばならない、彼等は又碌に漢文を學んだ事ごありませんから、漢字は非常に六つ借しく、又非常に解し悪いものご心得て居るやうであります、漢字到來の當初は、慣熟せない事ごありますから、定めし六つ借しいものであつたのでありませう、併し輸入以後、最早幾千年の久きを經過した今日では、國民

一般が能く使い慣れて居りますから、漢字も假字同様、既に日本固有のもの、やうになつたのであります、勿論字畫に於ては、随分面倒なものがないでもありませんが、それは専門家が、詩とか賦とか、將た墓誌銘なんかを使用する部分で、普通使用するものは、何の交渉もないのであります、彼等は又漢字は字數が餘りに多いから、之を學習するにも、幾多の歳月を要するの不便があるを申しまするが、之は不便を唱ふる理由にはならないのであります、何となれば學問の多端なる今日、何も康熙字典に満載してある、四萬八千字を暗記するの必要はないのである、大概二三千字も暗記して、其意義の一斑を心得ましたなれば、恁んな事でも書けるのであります、小學第三年から第六年までの三ヶ年間に、毎日一字宛記誦するにしても、優に二三千の漢字は、學習し得られる筈である、之に對して

101 演 講 と 説 演

至難か困難か申しまするのは、餘りに我國民の頭腦を、見縊つた話ぢやありませんか、彼等は更らに支那の衰微に藉口して、大に漢字の不利不便を攻撃致すのであります、實に思はざるも亦た甚しい云はねばなりません、支那の衰微は多く制度の罪であつて、文字は何の關係もないのであります、兎角理窟は付けやう一つであります、何も幾千年の歴史ある文字までも打棄て、俄かに羅馬字を採用して、新らしがる必要は、毫もないのであります、述べて茲に至りますれば、羅馬字と漢字の得失は、最早充分御諒解になつた事と信じます、さらば之にて諸君にお別れを告げませう。

籠城の戦略上に於ける價值

諸君………現在眼前に大敵を控へて、之に適應する所の戦略を施すことは、武將權内の事に屬するのでありますが、其成敗の跡に付て、批評を加へるのは、我輩文士の自由で、而も又我輩占有の壇場であります、此見地によつて、聊か所懐を述べて見たいと思ふ、我國の歴史を繙いて、いつも愉快を感じるものは、元龜天正年間の戦記であります、夫の武田信玄は、當時四面に大敵を受けつゝあるにも拘らず、城云ふ城は、未だ曾て築いた事はなかつたのであります、之は退いて守る者は、勢ひ既に數里の内に屈するの弱味があるからである、之に反して進んで攻むる者は、勢ひ既に千里の外に伸ぶるの強味があるから、彼はいつも圓石千

仞の機會を失はず、猛進突撃、勝を一舉に收むるを以て、戦略の秘訣を致しました、併し攻むるも守るも、其地の形狀如何に、其時の形勢如何によつては、大に參酌せねばなりませんから、一概に信玄の戦略を、上乘なり云ふ事は出来ないものであります、信玄の本領であつた甲斐の國は、四面壁立の山岳を以て、圍繞して居りますから、容易に敵の侵入を許さない代りに、イザ籠城云ふ場合は、糧道杜絶の憂ひがありますから、信玄は地形に鑑みて、進出を以て唯一の戦略を致したのでありませう、次に上杉謙信が、小田原城を包圍した際に、守將北條氏康が、籠城固守して、謙信に一ト泡吹かせた、痛快の戦略を語る事に致します、謙信が精兵數千騎を引卒して、小田原城を圍みました際は、謙信の大旗は、既に城壁を摩づるまでに接近したるに拘らず、守將氏康は、一矢だに酬ゆるを許さず

泰然自若、敵の疲弊を待つて居たのであります、果たせるかな、謙信は糧食の缺乏を憂へて、深夜竊かに旗を巻いて、退却致したのであります、戦はずして人の兵を屈すてふのは此事で、流石に氏康は一流の名將たるに耻ぢないのである、籠城の必ずしも排斥すべきものでない事は、之によつて立証し得らるゝのであります、更らに大阪籠城の得失に及ぶ事に致しませう、眞田幸村や後藤基次の輩は、素より老狸家康の敵ではないが、金城湯池の要害は、容易に關東武者の侵入を許さなかつたのであります、又糧仗の充實は、數年を支ふるに足つたのであります、されば主將秀頼が、基次の献策を容れて、一たび千飄の馬標を、家康の陣頭に淮めましたなれば、勝敗の數は未だ俄かに逆睹すべきものではなかつたが、掣肘百出、軍の統一を失つた爲めに、猿面郎巨構の跡も、東人の一炬、哀れ焦土灰燼と

化したのであります、降りて明治丁丑の役をお話申しませう、時は明治の十年一月、老西郷の部下に屬する、薩の健兒二萬人が、意氣冲天の勢ひを以て、熊本鎮臺に殺倒せる際、城將谷干城は、之を綠河に邀へず、之を白河に防がず、敵の侵入に任せ、城門堅く閉ざして、孤城を守つたのであります、連戦數月の後に至つて、糧食既に盡き、纔かに粟粥を啜つて、餘喘を保つ事となつたのである、此時に際して、空しく官軍の來援を待つて、數日を曠く致しましたなれば、賊の屠る所となつたかも知れないのであります、其時豪膽無二の樺山資紀も、籠城者の一人でありましたが、形勢の日々に非なるを見て、突進突撃、萬一を期するの策を立てました、幸ひ干城の容るゝ所となり、見ん事奇功を奏しまして、終に援軍との聯絡を結ぶやうになつたのであります。

諸君………我輩は話頭一轉、張巡許遠の睢陽籠城に及んで見たいのであります、張巡の能く謀る、許遠の能く戦ふ、當時既に隨一の稱があつた、まして勇將雷萬春の如き者が、之に参加したのでありますから、如何なる大敵が押寄せ、落城の慘禍を見るべき筈はないのであります、然るに死守數旬を出ずして、終に賊の攻陥する所となつたのは、彼等が武運の拙ない爲めであつたか、戰略其宜しきを得なかつたか、二者孰れか其一に居らねばならない、我輩の見る所によれば其敗因の敗因は、主將張巡が大兵を擁する、賀蘭進明の救援を空頼みにして、飽迄孤城を固守したからであります、若し一方の血路を斬り開いて、勤王の大旗を翻して、進撃したならば、當時觀望の腰拔共も、名分の正しきには敵し兼ねて必ずや相當の軍勢を糾合する事が出来た筈であります、事茲に出ず、日々に援軍

を待つ間に、糧食既に盡きるに同時に、士氣消沈、終に敵の蹂躪する所となつたのであります、以上は和漢古今の數例に過ぎませんが、要するに籠城は、戰略上拙の拙なるものであるに斷言しても、敢て失當ではあるまいと思ふ、夫の氏康の如く、一時敵の銳鋒を避くるの策としては、我輩も亦異論はないのであります。

ロハ臺と貧民の關係

地方に安住して居る人に向つて、ロハ臺なんか言つた處で、恐らく何等の感想を起す者はありますまい、中に頭敏な人があつて、ロハは約めれば、只の字であるから、無料臺云ふのぢやないか、反問せられるかも知れませんが、此無料臺に絡み付て居る、悲惨の物語ある事は、到底御承知はあるまいと思ふ、諸君

……遠い處で、東京の上野若くは淺草公園、近い處で大阪の天王寺又は中の島公園なんかにお遊びになつた事がありますか、もしあるとせば、諸君は其人群雑沓の盛況と、其娛樂設備の完全なるには、必ず一驚を喫された事でありませう。大抵公園に散策を試むる人の目的とする所は、娛樂の一方でありますから、社會問題の種子まで探し出して、自ら氣苦勞を求むるやうな、お節介な人はありますまいが、さりごと自己一人の娛樂を恣にするにして、他人の窮迫を顧みない云ふのも、道義上餘り褒めた話でもありませんまい、何人でも公園を散歩する際は、其懐中の豐潤如何によつては、或は寄亭を覗くか、或は活動を見るか、乃至は蕎麥を喰ふか、壽司を頬張るかして、其日一日は尤も愉快に過すものであります、然るに園内に入る處の木蔭に、三々五々備付てある、所謂ロハ臺の占領者は、食ふに

錢なく、歸るに家なく、茫然自失、身をロハ臺上に横へて、空しく死の神の來迎を待つて居るのであります、諸君の如く何の氣なしに、此横臥の人々を見ましたならば、悠悠々休息を貪るものごしか、直覺せられないであります、能く其顔色や其着服に注意を拂つたなれば、如何に冷淡な人間でも、坐る同情の念を起さずには居られないのであります、勿論多くの中には、自業自得、斯る境界に沈淪したのもありませんが、概するにあらゆる方面の落武者であつて、深く既往を責むる程の事はないのであります、此の如き窮民をして、大都會の公園に、一種の見世物同様に、ロハ臺上に晒して置く事は、社會政策上、大に考慮を要すべき事だと思ふ、世の經世家は申すに及ばず、富裕の人々は、一たび慈眼を茲に注いで、何ぞか救濟の方法を講じて貰ひたいものであります、諸君にして若し私に

御同感でありましたならば、之を一の政治問題として、社會の同情を喚起する事に、努力したいものであります。

肋膜炎と自療法

肺病と壁一重越しと云れる肋膜炎も、其初期に際して、相當の療法を怠りませなんだならば、速かに全治するものであります、しかし庸醫の爲めに誤まれるか、療養を怠るかして、慢性と變化した場合は、最早大家名家の診療を煩しても、容易に回復するものではありません、本壇に立てる演説者も、嘗て此病に罹りて苦き經驗を嘗めたものであります、人の勧むるが儘に、甲の醫師をたより、乙の醫師を煩して、薬と云ふ薬は、浴びる程服用し、滋養物も鼻につく程攝つて見ま

したが、更らに寸効を見るここが出来なかつたのであります、平生は死壽貳はすだの、死生命ありだのこ、大言壯語致して居ましたが、愈々死の魔の手が觸れそうになれば、生存慾は却て昂進するばかりでありますから、或は灸治を重ねたり或は鍼療を試みたりして、迷ひから迷ひに陥つて、果ては神佛にまで、祈願しやうかこまで思つた位でありました、處で……不圖思ひ付ましたのは、孟子の「居は氣を移す」と云ふ語であつたのであります、之は一番海岸療養を實驗するに若くはないと思立ちまして、直ちに汽車に搭乗して、某海岸に轉地したのであります、一二日の間は、汽車の動搖の爲めに、多少氣分に影響を及しましたが朝夕暮々、適宜海岸を逍遙して、蒼茫萬里の波濤を縦観して、歸來床上に横るこ、いつこはなしに華胥境裏の人となるのであります、斯くの如く毎日々々自然

の大觀に接して、細故を忘れ病苦を忘れて、浩然天地と同化するの想ひが生ずる。同時に、復た昔日の強健体となつたのであります、自然療法の奇功ある、到底醫療の及ぶ所ではありません、若し此病患に呻吟せられる人があれば、私は飽くまで自然療法を慫慂したのであります。

一は 演 説 体

賣 藥 業 者 發 展 會 席 上 に 於 て

諸君………既往五年前の歴史に溯つて、我賣藥業界の状態を回顧致しますれば轉た感慨に堪へないものがあります、夫の獨逸が多年蓄積せる勢力を以て、東洋の天地に、一大飛躍を試みました當時は、恰も旭日昇天の有様で、政治上の勢力

も、實業上の實權も、一に獨逸の爲めに占有せられて、流石の英米二大強國さへも、後へに瞠若たるの觀があつたのであります、されば多年我賣藥業者の勢力範圍であつた、南清地方や、南洋一帯の商權も、悉く彼の手中に掌握せられました、我製品の販路も、之が爲めに杜絶した結果、殆んど製品の向け口に困じて、終に内地に於て、同業相争ふの慘劇を呈したのであります、之は恰も水の性に逆つて、中流を閉塞したやうなもので、其氾濫横溢を見るに至つたのは、自然の趨勢で、又如何にもするこゝ能はざるものであります、是時に際して、我々同志は種々協議の末に、獨逸の實業家に、對抗するの方策を立てんが爲めに、俄かに設けましたのが、即ち此發展會であるのであります、此事たる直接自家の利害に、大關係ある問題でありますので、諸君の意氣組も亦た大したものであります、

然るに獨逸は歐洲交戦に大敗取を取り、國家の勢力も、愈々微弱になつて、今や海外發展の餘裕がなくなりましたから、之まで雌伏せる我同業者も、漸く擡頭の氣勢を現すに至つたのであります、獨逸は今こそ戰敗衰殘の疲弊國であります、彼が如く耐性に富んで居る國民でありますから、此處三四年の後に至つて、其國の秩序も回復し、其國の産業も再興致した場合は、必ず以前に倍する大計畫を立て、再び東洋の天地に雄飛を試むることは、私共の想像でなくして、必ずや事實になつて現れるに相違御座いません、其期に際して、何等の進歩なく、何等の發明なき、我同業者が、既往の手段を以て、之に抗爭せん致しましても、恐らく必勝を期することは不可能だらうと思ふのであります、よつて自分は、層一層、此發展會をして、意義あるものにするには、經費の許す限りは、なるべく

多く販賣員を増派して、製品の販路を擴張し、併せて需用地の實情も踏査せしめて、改善を加ふべきは改善して、其嗜好に適應するやう、細心の注意を拂つて、獨逸の再舉に備ふる所がなくては、到底今日の好況を、永遠に持續することは、斷じて出来まいと思ふのであります、聊か卑見を吐露して、諸君の御一考を煩す次第であります。

帽子業組合宴會の辭

諸君………本日は我組合の定例になつて居る、宴會の定日であります、いつも杯酒献酬の後に至つて、各自得意の陰藝を演じて、陶然一日の遊興を縱まゝにして互にお別れを告ぐる事になつて居りますが、之は組合の親睦を謀るに於て、此

上もない吉祥善事であらうと思ふのであります、御互のやうに、三百六旬、店頭
 に危坐して、華客の應酬に、妙からず心氣を使ひまするものは、時折り斯る宴席
 に臨んで、平生の鬱散を試むるに云ふ事は、言はば生命の洗濯にもなるのであり
 ますから、事情の許す限りは、店員一同も此宴席に招致して、共に樂みを頷ちた
 いものであります、勿論年若い者を、藝妓同列の坐席に於て、酒食を侑めるに云
 ふのは、多少弊害がないでもありますまいが、嚴格一点張りで、今日の店員を指
 導するに云ふのも、亦た一考を要すべき事だらうと思ふのであります、むかし
 から不義淫奔の情事は、嚴格主義の家庭に現れる事が多くて、放任主義の家庭に
 は、却て斯んな醜聞は聴ないやうであります、此点から考へて見ましても、嚴格
 主義は餘り賞揚すべきものでもありますまい、さればご申して、私には敢て放任

主義を鼓吹する次第ではありません、要は店主たる人々の、舵の取方一つで、如
 何にもなるだらうと思ふのであります、幸ひにして諸君の御賛成を得ましたなら
 ば、來期の宴會には、之を實行して、樂みの分量を、今一層擴大致したいもので
 あります、御献酬の央をも顧みず、詰らない事を申上げました段は、平に御用捨
 に預りたいのであります。

報恩會席上の辞

我が高山俊徳先生の逝去は、恃り學界の一大損失なるのみならず、實に我等門人
 一同の一大不幸に申さねばならない、天下の新聞が一たび先生逝去の報を傳ふる
 や、其知るに識らざるに論なく、皆衷心より哀悼の情を表さない者はなかつた

のであります、先生の徳の高き學の深きは、此一事に徴しても、窺ひ知るこゝが出来やうと思ふ、若し先生にして世に求むる所がありましたなれば、文相の地位を得るも、亦た容易でありましたが、先生は仕官就職を脛しこせず、畢生村夫子に甘んじて、専ら子弟の教育を以て、唯一の樂みこせられたのであります、其富貴利達に冷淡なる、心事の高潔さ、人格の崇高なるこゝは、實に一代の名儒人倫の標準たるに負かなかつたではありませんか、不肖私の如きも、常に大過なきを得ましたのは、皆先生の賜ものたるに過ぎないのであります、先生の逝去後、我等門人一同は、先生の學徳を永遠に記念せんが爲めに、本會を組織して、既に建碑の資金募集にも着手致しましたが、斯る一小事業にては、未だ先生鴻恩の萬一をも報ずるには足らないのであります、むかし孔子没して、三年墓側を去

らなかつた門弟もありました、弟子の先生を追慕する、斯くありてこそ、其學ぶ所に耻じず云ふ事が出来るのでありませう、自今以往先生の忌日には、特別の事情がない限りは、必ず集合して、先生の逸事逸話を物語つて、先生の學徳を偲ぶ事に致したいものであります、不肖私は諸君よりも、一日の長あるが爲めに苦言を吐露して、諸君に御注意申上る所以であります。

端 唄 會 席 上 の 辞

諸君……御互人間が、日夜絶間なく働いて居りますのは、名の爲めでありませうか、利の爲めでありませうか、若し名の爲め致しますれば、成るべく衒耀やかな、大臣さか大將さか、若くは大關か千兩役者なんかを目的に、務め勵んだ方

が、伶俐な遣口であらうと思ひますが、残念な事には、人間には夫々天稟云ふ自然法の割當がありますから、蠡斯のやうな瘦軀や、菊目石見たいな痘痕面て千兩役者たり日下開山たらんご欲しても、逆も出来ない相談で、詰りは徒勞に畢る事は言ふ迄もありません、大臣も大將も猶且此通りで、自然法の籤漏りなれば一層諦めるより外には道はないやうであります、さらば利の方へ宗旨を變へて見ますか、日本の三菱や三井位の金持では、未だ世界大富豪の名を博する譯には参りませんから、米國のカーチギーかモルガンあたりご、肩を並べる意氣組みで、飲む物も飲まず喰ふ物も喰はず、一生懸命働いて見た處で、之も天運ご云ふ環り合せに、甘く遭遇ねば、到底夢想だも出来るものではありません、孰方向いても却々容易でないごすれば、寧ろ柵の牡丹餅が落ちて來るまで、果報は寐て待ての

寸法を守つたものでありませうか、寢るご起るは、各人の自由でありまするが、天地間の約束は、珍妙不思議なもので、山程積んだ財産も、寢食ひをすれば、束の間、盡き果て、仕舞ふやうに、悠々怠けて居ては、多少の蓄財は、忽ち雲散霧消して、聽ては一碗の粟粥さへも、啜れられないやうになるものであります、そこで名の爲め利の爲めでなくごも、一身を支へ一家を支へるには、如何あつても働らかなければならぬやうに、チャンシ仕組んであるのであります、上を見れば又限りがないのである、是に至つて人は、天道是が非かの嘆を漏らす者であります、之がそも間違の骨頂である、一体地位ごか名譽ごか云ふものは、衆愚を操る爲政治家の手段で、其秘密箱を覗いて見れば、位階勳等なんかは、衆人の涎を垂らす程、難有味のあるものではありません、何はさてをき、人間は身を高處

に居く事が肝要であります、大臣でも大將でも、自己勞働の報酬を以て、自己の代理行爲をなさせる爲めに、雇入て置くもの達観すれば、自己が主人で、彼等は一の雇人たるに過ぎないのであります、千兩役者も日下開山も、此通りに思ひ傲して、自己が娛樂の一端を満足させる、自動的一種つ機械を見て仕舞へば、羨ましくも望ましくもないものであります、さて私が申しまする、達観をか悟道にか云ふのは、名僧高德の勿体附るものこは、大に違ふのでありますから、木魚の音を聴いたり、線香の臭いを嗅いだりして、悟れるものではありません、御互は御互に、夫々天分があります、其天分は畢竟天職であるこ、高く自ら矜持して居りますれば、荷車挽かうこ、肥桶擔かうこ、毫も下名譽でもなければ、又苦痛を感ずる事もない筈であります、しかく悟るには、心に餘裕を保つこ云ふ事が、而

壁九年の閑潰しするよりも、將た萬卷の書を讀むよりも、より以上効能があるものであります、其れには資本入らずの端唄でも諡つて、いつもいつも物こ春を爲すてふ觀念を持つて居れば、此世からして極樂淨土に安住する事が出来るものであります、端唄會の産れた所以も、畢竟此意に外ならないと思ふのであります、未だお唄が始らないやうでありますから、端唄ならぬ長談義を、一寸一席涅槃廻したのであります。

博多織物組合會同に際して

諸君………本日突然御會合を煩しました、理由の一端を申し上げて、諸君の御諒解を得たいものであります、近來我博多織の意匠が、世上一般の嗜好に適しま

した爲めか、各地よりの注文が、日一日と激増の盛況を見るに至りましたのは、實に欣快の情に堪へないのであります、然るに茲に見通すべからざる、一大事件が勃發致したのであります、我組合員の中には、既に其内容の幾分は、御承知の方もありませうが、未だ周知の場合にまでは、なつて居ないやうでありますから只今私より詳細に御報告申上げまして、之が對策を御協議致したのであります、さて其一大事件云ふのは餘の儀でもありません、夫の某々地方の織物同業者は、我博多織の需用が日々に激増するに同時に、彼地の特産に係る、某織物が減切り賣行不捌になりましたので、羨望嫉視の極、竊かに我同業者の意匠を摸倣致しまするのみならず、デッテル迄も、博多織元と銘打つて、盛んに市場に販賣致して居るのであります、斯る証據は那邊より蒐集致したかき、御疑問も起り

ませうが、其れは私が唯一の地盤を致して居りまする、炭坑地の顧客より、恚んな事を警告致したのであります、一寸其概略をお話申上げますれば……貴店の製作に係る、近來の織物の中には、綿糸の混入夥しく、且つは其染料が粗悪なるが爲めに、光澤なく精采なく、殆んど博多織の特色を没却して仕舞つた、斯くては博多織の名聲を損する計りでなく、貴店の信用にも大關係を及す事であらうから、以後充分の注意を望む云つたやうなものであります、斯くの如き有様では、強ちに弊店の製品のみならず、諸君の意匠もデッテルも、同一手段を以て、摸造偽造を敢てして、各地に濫賣致して居るに相違ありません、果して然らば我博多織物同業者の信用を毀損するごきは、甚大ならんと思ふのであります、されば此際我組合員より委員數名を擧げて、彼地に特派致しまして、其不都合を

詰責致しまするに共に、我製品の名譽毀損の賠償として、滿天下の新聞に、彼地同業組合の名によつて、謝罪文を廣告致しまするやう、嚴重なる交渉を開始致度ものであります、其には差寄り多大の費川を要する事でありますから、諸君の御協賛を得たいと思ふて、御集合を煩した所以であります、若し御異存がありませんんだならば、更らに委員會を再開して、特派員を選挙する事に致します、只今書記より投票用紙を差上げる事に致しますから、諸君は諸君の信頼せらるゝ人々に對して、記名投票が願ひ度であります。

肺病院上棟式の辭

内務省の調査に係る、昨年の統計表を一見すれば、肺病患者の總數は、既に幾千

幾萬の多きに達して居ります、之を我國の人口に對照して計算すれば、約何分の三を占める事になります、若し此趨勢に一任致しましたならば、國家の生存上、由々敷問題が起らないとも限りません、人生豫定の年齢に達して、此病に斃れたるに致しますれば、幾分悲哀の情も、軽減し得らるゝのであります、學校卒業の際か、嫁入間際に、不幸此病に罹つて、一朝不歸の人になりまする事は、人生の最大恨事で、其父たり母たり兄弟たる人々の心事に想到致しますれば、哭泣せざらんとするも、又能はざる所であります、醫術の進歩せる今日、杏林敢て人なし云ふではありませんが、未だ之が根本的療法の發明ない爲めに、多くは不治の病として、患者も絶望の嘆を洩らし、醫師も亦た手を空くして、病の昂進を傍觀するの有様であります、我柴里三郎先生は、痛く此事を遺憾させられ、研究十

年、漸く之が適法と適樂を發明して、之を幾多の患者に實驗せられましたが、百發百中、殆んご起死回生の靈驗がありますので、患者は日々に殺到の盛況を見るに至つたのであります、從來の病院では、最早收容の餘地なきに至りました結果、昨年より新築工事に着手せられ、終に今日落成を告ぐるに至つたのであります、本病院は北は極樂山に面し、南は淨土川を控へ、満月の風光は、悉く詩景ならざるはなしでありますから、其位地の適富なるを、先生の神術と、二つながら相待つて、一段の功果を見る事は、我輩の深く信じて疑はざる所であります、茲に謹んで先生の大成を慶賀するに同時に、本病院の落成を、衷心より祝福致すのであります。

袴裁縫業組合會席上に臨みて

諸君……諺に薬人形も装束云ふ事がありますが、これは確かに半面の眞理を道破したものであります、夫の才徳技藝の未だ備らない一凡夫でも、黒七子の紋服を着し、仙臺平の袴を穿ち、右手に白扇を握つて、堂々公式の場所に臨んだ處は誠に立派なもので、誰も其人の眞價以上に、買冠らないものはありますまい、之に反して讀書成學の人でも、羊羹色の棉服に、洗晒の弊袴で、鞠躬如として畏つた有様は、如何にも貧弱で、其人天稟の徳性も、哀れ襤褸装束に包まれて、異采を放つことは出来ないであります、之を見ても薬人形云々の諺は、服装美の必要を、尤も鮮明に語つたものであらうと思ふ、されば故らに執拗奇を銜ふ所の

變人でない以上は、何人も其地位の進めば進む程、服装を嚴にして、自己の尊嚴を保つことには、多大の注意を拂ふやうであります、むかしの漢學書生は、論語を逆に讀んだものか、孔子の言行録も云ふべき郷黨篇に、服装の閑却すべからざる事を、諄々誨へてあるにも拘らず、年が年中弊衣弊袴で押通して、毫も服装に心を用ひませんでしたから、其弊や粗暴に流れて、穩健着實の美風に缺ぐる所があつたやうであります、従つて頭腦も散漫になつて、事務的才幹も云ふものが全然なくなつたのであります、恚んな人物は、亂世には陣頭の旗持位は務りませうが、治世には役場の小使にも、些之間に合ひ兼ねるものであります、現代の書生は、稍邊幅を飾り過す傾がないでもありませんが、服装に對する趣味が濃厚でありますから、漢學書生のやうな、粗野暴慢の態がなく、見るから温雅着實の

風がありますので、自然世人も敬意を表するやうであります、斯くの如く服装の身神に及す影響は、重且つ大でありますから、決して無頓着に濟ませるものではありません、然らば日本人にしては、如何なる服装が、尤も社交場裏に、適當であるかご申しますれば、無論禮服には羽織袴に上越す物はありますまい、或は洋服の輕便を説く人もありませんが、日本家庭の建築に、一大改良を施した後にないし、洋服は窮窟で、迎も長時間の儀式に堪へられるものではありません、まして洋服姿と和服姿とは、其優美高尚の二つに於て、霄壤の差がありますから、我國固有の美風を棄て、までも、西洋摸倣の必要はあるまいぢやありませんか、日本の服装を優美なり高尚なり云ふ論據は、孰の点にあるか云ふ反問を受けましたならば、私は羽織袴であるごお答したいのであります、其れ丈け羽織袴に

は、權威がありますから、其仕立方も却々容易ではありません、第一袴は襷積の淺深さ、腰板の恰好如何によつて、品位に非常の昂低を生ずるものでありますれば、餘程丹精を凝らさないでは、五泉平でも仙臺平でも、全然臺なしになるものであります、かるが故に直接羽織袴の裁縫に従事する御互は、日本禮服の消長如何に關する責任者であるご自覺して、技術の進歩發達を謀らねばならないと思ふのであります、従前の如く收入のみに腐心して、生半熟の徒弟に、之が裁縫を一任するやうでは、着袴の流行を見ることは、蓋し又至難であらうと思ふ、我々組合の會合は、新年宴會を兼ねて、毎年一月十五日、一回の開催で、容易に諸君と面接するの機會がありませんから、今日を迦しては、次會の開催までは前途甚だ遼遠でありますので、一寸私の思付の一端を開陳致した次第であります。

博覽會開會を祝するの辭

本日各府縣の知事閣下及び出品者諸君と共に、開會式を舉行するの光榮を荷ふ事は、私の尤も幸慶とする所であります、私は主催者側を代表して、諸君が遠來の勞を謝すると共に、本會の經過を御報告申上たいと思ふのであります、昨年一月私共五六の有志は、九州地方の殖生興業が、果して那邊まで進歩發達を遂げましたか、這を試験的に、博覽會を開催しては如何に云ふ問題を、提起致しました處が、忽ち多數の賛成を得ましたので、其具体案を提けて、我世話野知事の意向を確めまするに、知事閣下も私共苦衷の存する所を諒せられ、愈々之を縣會の討論に付する事になりました、議員諸君におきましても、一人の異議を唱ふる

者もありませず、満場一致、原案通りに可決致したのであります、そこで縣土木課では、設計通り工事に著手致しましたが、何等の故障も見ずして、豫定の日子に、工事は竣成を告げたのであります、爾後数十日の間に、出品陳列を各方面に勧誘致しましたが、是れ又意外の大成功で、其出品の数は殆んど幾千萬点の多きに達したのであります、斯る好結果を見るに至りましたのは、縣當局の措置其宜しきを得たるは勿論、縣會議員諸君及び新聞各社の、斡旋努力の賜ものも亦大に與りて力ありし事さねばなりません、位置としては九州の中央で、交通機關の設備も、間然する所がありません計りでなく、時は恰も陽春四月の好時節でありますれば、自今入場者の日一日も、激増する事は、毫も疑ふの餘地はないのであります、此開催にして殖産興業に資する所がありましたならば、將來我九州の發

展は、必ずや天下の耳目を聳動すべきものがあらうと信するのであります、果して然らんには、恃り出品者諸君の面目なるのみならず、我々主催者の素望も、亦た達し得られるのであります、聊か過經の一斑を開陳して、今日の祝辭に代へます。

刷毛製造業者相場協定會に於て

諸君……諸君にして、若し多少の餘裕時間を有せらるゝなれば、開議に先ちて私に所感を述ぶるの自由を與へて戴きたい、回顧すれば今は早や十年のト昔になりましたが、本組合の設けられました當時は、刷毛工場の数が全体を通じて僅かに十指を屈するに過ぎない位でありました、従つて其一年間の生産額も、亦

た甚だ貧弱なもので、内地の需用さへも満たすことが出来ない位でありました、碎いて申上りますれば、需用者が多くて、供給者が少ないのでありますから、景氣は常に春風駘蕩の觀で、殆んど獨占的に巨利を占めたものであります、そこで組合一同の會合があつても、事業の發展さか、人格の昂上さか云ふやうな、各自緊喫の問題には、未だ會て觸れた事はなく、會々話題に上るものは、桑田濮上の淫事か、通り一遍の世間話に過ぎなかつたのであります、處が………幸か不幸か、前古無前の大戦争は、私共の營業にも、一大打撃を與へたのであります、それは獨逸の輸入品が、一朝杜絶の有様でありましたから、南洋方面の取引先より、前例にない多數の注文に接したのであります、此好況を看取致しました、一部の商人は、此機逸すべからずと、續々刷毛製造工場を設けて、盛んに製造に着手致し

たのであります、之は私共にとつては、實に青天の霹靂でありましたから、俄かに組合會議を開いて、之に反抗するの策を以て、先づ思切て卸値を引下げ、顧客の人氣を維持する事に努力致したものであります、之が爲めに新舊營業者間に激烈なる競争が開始せられました結果、薄資本の者は、終に廢業の止むなきに至つたのであります、此混亂時代に際して、奮然起つて之が調停の任に膺られた、現任會長 力野有造君は、新舊營業者の間に、幾回かの交渉を重ねて、有理の主張は、一々之を容れ、非理の主張は、親疎の別なく、悉く排斥して、始めて圓滿なる解決を告ぐるに同時に、新舊營業者を打つて一丸となし、愈々大團結を見るに至つたのが、現在の我組合であります、製造工場の数に於ても、組合員の数に於ても、最早今日では、他の組合に較べましても、遜色なきに至つたのであります

す、斯る盛運に向ひましたのは、時勢の然らしむる所は言へ。其一半の功績は確かに力野會長の盡力にあること云はねばなりません、斯る功績ある恩人に對して何等酬ゆる所がないのは、私共の忍びざる所でありますから、此際組合費を以て、其紀念として金盃一個を呈贈したいものであります、諸君も定めし御異存はありますまいから、早速其手續を運んでは如何なものでありませう、私一己の所感を語る爲めに、貴重なる時間を割いて下さいました、諸君の御厚意は、深く感謝致します。

牛酪製造業者組合設置に付て

衛生思想の發達した爲めか、乃至は民衆生活の昂上した故か、兎に角近來肉食者

激增の兆候が見へまするのは、御互營業上の繁榮を見るに止らず、國民體格の健全を促す上にも、喜ぶべき現象であります、此時に方新に組合を設けて、小賣相場の標準を一定し、併せて製品の改善を促し、一般需用者の嗜好に適するやう最善の方法を講ずる事は、御互の務むべき責任であらうと信するのであります、就きましては、牛酪製造に取別け經驗を有せらるゝ、味野良造君を會長に推薦して、同君の御指導を仰ぐ事に致しましては、如何なものでありませうか、幹事其他の役員は、投票を以て決定致しますれば、公平を缺ぐ憾みもありません、先づ味野君の御承諾を受けまして、役員の選舉に移り、而して後に組合規約を起草して、之を一般の討議にかけたいのであります、不肖私は潜越を願みず、一寸此事を諸君に御相談申上るのであります、御異議もないやうでありますから

味野君は萬望會長席に、御着席下さいまして、就任の御披露あらんことを切望致します。

旅籠屋組合茶代撤廢反對會に於て

諸君……刻下我組合は、茶代撤廢勵行に、茶代廢止反對の二派に別れて、互に其主張を固守するの極、殆んど嫉視反目するの狀態に陥つたのであります、之には種々の困縁關係もある事でありましたれば、容易に其可否を斷定する事は出来ないのであります、孰れにしても組合の親善を破壊するのは、實に遺憾の至りであります、三四等級の旅籠を経営する者は、所謂頭数を以て、收入を増加しやうと云ふのでありますから、人氣吸收の一策として、茶代撤廢を主張せらるゝのも、

畢竟其營業の繁榮を、拓來せんが爲めでありましたれば、一概に排斥する事は出来まいと思ふ、又一二等級に屬する高等旅籠の營業者は、頭数よりも寧ろ客種子を精選する傾きがありますから、設備の上にも、接待の点にも、自然餘計な費用を餘計な面倒があるのは、避くべからざる必要條件であります、されば旅籠料のみ甘んじて、全然茶代を撤廢するに云ふ事は、確かに苦痛であらうと思ふのであります、第一高等旅籠になりますれば、四季の變遷に従つて、一々其設備を改めねばなりませんから、今俄に茶代を撤廢した場合は、其費用の出所がなくなりますから、之も亦た考慮を重ねるの必要があらうと思ふのであります、私は生憎も一等旅籠の經營者で、而も亦た會長の任に膺つて居りますれば、此問題に付きましては、賛否ともに決し兼ねるのであります、若し私が一二等級側の御説を採用

致しましたならば、自己の利益に趨るご云ふ批難は、必ず持ち上る筈であります。強めて三四等級側の御意に従ひますれば、又一二等級側からは、多勢の壓迫を恐るゝごか、腰拔會長ごかの誹を受けるに極つて居ります、ご申して連月に亘る、此紛糾事件を、此儘いつ迄も抛擲して置く事は、會長の責任にして、到底出来な事でありませば、此處は一番、私に御一任下さる譯には参りますまいか、今日の日やうに同じ組合の中に、斯くの如く確執を見るに至りましては、よし組合會議を開催して、是非を衆議に問ふご致しましても、甲論乙駁で、恐らく解決を見る事は、至難であらうご信するのであります、勿論議場の方則にして、多數によつて採決すれば、其れで事は済むやうなものであります、主張の容れられなかつた人々は、必ず不満を抱いて脱會するか、或は組合が二つに分離するかして

將來の私交上にも、面白からざる結果を見ないごも限らないのであります、よつて之が融和を謀りまするには、一二等級側より委員五名を擧ぐるご同時に、三四等級側からも同数の委員を擧げて、坐談的に互に意見を交換して、讓歩すべきは讓歩し、妥協すべきは妥協して、尤も平穩に尤も圓滿に、此問題の解決を謀るやう、努力致したいものであります、一体茶代其物の性質から申しますれば、旅客が旅館の好遇に對する、善意の贈物でありますれば、之を受納したからきて、敢て差支はない筈であります、底には底があるもので、或一部の旅館では、竊かに女中に内意を含めて、暗に茶代を強要するやうな事も、あるさうであります、廢止論者が人格云々に藉口して、撤廢を主張されても、強ち之を拒む事も出来まいご思ふ、要するに問題の歸着点は、収入の多少にある事でありませば、

此際旅籠料の値上を、其筋に申請するか、或は旅客の注文ない以上は、全然菓子
は提供せぬ事に、内約を結んでは如何のものでありませうか、素より之は私一己
人の考で、敢て之を遂行しやうと云ふのぢやありませんから、採用下さるゝ否
は、諸君の御勝手であります、終に臨んで更らに繰り返して申上げますが、萬
……此處は私に御任せ下さいませれば、不肖ながら最善の方法を以て、圓滿に
解決するやう、十二分の努力を致す積りであります。

羽二重輸出商集會に臨みて

諸君……商機を瞬間に捕へて、商業の輸贏を頃刻の間に決せん致しまするに
は、大に氣象上の知識が必要であらうと思ふのであります、今や天文臺や測候所

は、精密なる器械によつて、日々の氣象を報告致しますから、之に基いて自己の
判断を下しても、大過ないやうではありまするが、大自然の變化は、區々たる器
械位では、充分的確に豫測し得ざる場合もありますから、平生肉眠界觀測を怠ら
ずして、天地自然の變化を知るの知識を養ふ事が、肝要であります、對岸の好得
意である、米國を目標とする我々は、いつも其豊凶如何によつて、一喜一憂を免
れないのでありますが、畢竟氣象上の知識に缺ぐる所があるからであります、昨
年が好況であつたから、今年も大した變化はあるまいと豫斷して、好報來を待つ
間に、氣象變動の爲めに、忽ち取引は緩慢になつて、大失敗を招く事は、我々の
幾度もなく、繰り返す所の經驗であります、之に因て之を觀ても、氣象學の知識
なくして、輸出商に従事致しますのは、恰も航海に際して、磁石を用意せないの

一般、其顛覆を招くのは、寧ろ當然であらうと思ふ、斯く申せば、諸君に天文器械の据付を促すのではありません、或場合には、天文器械よりも、より以上靈力を有する、各自の肉眼的観測を、御勧め申すのであります、之より鎗野津久造君が、貿易經濟のお話がある筈でありますから、私は之にて壇を下る事に致します。

齒磨製造業同盟會に付て

近來支那中華民國が、衛生思想の普及發達に、全力を傾注するやうになりましたから、其國民の一部も、多少覺醒致しましたものか、漸次齒磨を使用するやうになりましたのは、保健上喜ばしき事であり、日支親善の手段は、政治經濟の

兩方面よりするも、固より差支はありませんが、此等は國家に國家の問題で、直接個人間の親善を促すには、稍迂遠の傾きがないでもありません、肉食の慣習ある彼等自然の通患として、齒痛に悩み齶齒に苦んで居る者に、我齒磨を常用せしめて、其通患を一掃して、彼等を壽域に躋すやうに致しましたならば、個人主義の發達せる、彼等の事であり、其恩恵に感ずることは、國家の利權を回復し、國家の經濟を緩和するよりも、より以上であらうと思ふのであります、されば我々は一面我國の富みを増殖するに共に、又一面には日支親善の促進者にもなる譯でありますから、此際我々の取るべき方法に致しましては、務めて材料を精選して、彼等の嗜好に最適するやう、細心の注意を拂はずはなりません、一時の好況に乗じて、粗製濫造、目前の利を射るやうでは、折角開拓した販路も

忽ち杜絶の悲境に陥る事は、自明の道理であります、今日故さらに同盟して、結束を堅くする所以も、之に外ならないと思ふのであります、同盟條件を御協議する前に、聊か所感を述べて、諸君の御一考を煩すのであります。

刃物販賣商組合相談會に於て

諸君………本日私が申上る事は、或は諸君の感情を害するかも知れませんが、私は組合の利益を思ふの餘り、忌憚なくお喋舌致すのでありますから、之を惡意に解釋せず、善意に御聞取が願ひたい、さて刃物販賣の方法として、各地に注文取に出懸るやうになつたのは、いつ頃からの事でありませうか、又此惡習慣の備を作つた者は、何人でありましたか、私は多く語るの材料は持ちませんが、

何にしる卑屈極まる、商略を評するより外には、命名の下しやうがないのであります、運搬にも多大の費用を要する、重量の金屬を、甲地に携へ乙地に去つて、小賣商人の御用を承るに云ふのは、愚も亦た甚しいに云はねばなりません、其れが現金取引なれば、多少の頭の下げ甲斐もありますが、高壓的に勘定は益暮の二期に、定められて仕舞つたのであります、一々其期節に精算して呉れますれば、幾分の利益に免じて、其期間の金利位は、忍ばねばなりません、動もすれば製品に難辭を付けて、却送致しまするか、或は無限の延期を乞ふ事も、珍らしくはないのであります、斯る珍現象を見るに至つた原因は、或同業者が一騎打の功名を博せんが爲めに、粗製濫造品を、無理無体に押付た結果であります、賣行のよい精品であるなれば、此方から態々出懸けて行かないでも、本地の特産物

は、他より求められるものでありませんから、先方より必ず注文する筈であります、平生現金取引の習慣を付けて置きますれば、遙々旅費を使つて、取立に行く必要もありませんから、此位健實な方法はないのであります、既往の悪習慣を、いくら繰り返しました處で、何の甲斐もありませんから、自今は断然注文取に出懸る事を廢するに共に、凡て取引は現金に限る事に致したいものであります、今俄かに商略を一變すれば、以前に貸付た品物代金の回収が、覺束ない心配せらる、方もありませうが、萬一にも不拂者がありますならば、一切取引を謝絶する事に致しますれば、先方も商賣は大事でありますから、必ず不義理なんかする筈はありません、本日御相談の要旨も、大概此邊の見當を考へましたから、私は惡まれ役になつて、斯くも大膽に申上る所以であります、諸君の御考へが、若し私

ご徑庭あるに致しますれば、萬望……此壇に立てお話が願ひたいのであります、有埋な事でありますれば、私にても萬更ら自分の主張のみを固守するものではありません。

麩包製造業者卸値協定會に於て

生活の困難を叫び、生活の不安を訴ふる者は、何が故に麩包を以て、米食の代用に供さないでありませんか、先づ經濟上の方面から研究して見ましても、麩包食の米食に優る点は幾程もあります、第一燃料の費用が省けます、第二燂の必要がありません、第三副食物調理の面倒が少ない、第四滋養に富んで居ります、第五多數の食器を洗淨するの煩累がないのであります、更らに生理上から申します

れば、米食常用から起る、胃腸病とか脚氣病とかの憂ひがない、以上の点から見ましても、麩包食の米食に優ることは萬々でありますから、何も高い米を炊き、高い菜を煮て、其手数多し其費用を、無意義に消耗する必要はない筈であります、然るに今猶舊慣に囚はれて、桂玉の爲めに不安を訴へまするは、恰も阿片中毒者が、苦悶しつゝも、猶且つ阿片を喫用するの如き、毫も異なる所はないのであります、殊に麩包を常食に致しますれば、労働者の如きは、労働能率を増進するの利益もあり、一片の麩包に、一七のバタを塗付て、五本箸で頬張つて仕舞へば忽ち大腹便々になつて、直ちに仕事に着手する事が出来るのであります、之に日本食の飯を頬張り、味噌汗を啜り、香物を嚙つて、餘計の時間を空費するに較べましたならば、其時間上の得失は、到底日を同ふして語るべきものではありません

ん、只だ少しく遺憾とする所は、刻下の麩包料が稍高きに失するの一点であります、よつて之が普及を計らんとするには、御互は薄利多賣主義を以て、唯一の商略として、白米小賣商の跋扈を防壓するやうに、努力せねばなりません、しかする時は彼等も行行くは、競争に堪へ切れず、必ず貸家の貼札をぶら下げて、必塞するに相違ないのであります、斯くて始めて米價も調節せられ、生活も安定して、夫の忌むべく恐るべき労働争議も、必ず鎮定し得られやうと思ふのであります、されば之を大にして國家の消長問題となり、之を小にして生活の難易問題となる譯でありますから、諸君は天下憂國の志士を氣取つて、卸値の引下に御賛同あらんことを切望するのであります。

馬術競技開會の祝辭

諸君……現代の運動法は、多く範を西洋に取りました爲めか、日本固有の運動法は、殆んど壓倒せられた傾きがあります、只だ少く昔日の面影を留めて居りますものは、柔剣術や弓術の類で、之れこそ眞剣に研究する人が尠いやうでありますから、塚原や宮本の名人が、現れないのも亦た當然の事であり、併し武を以て立國の基本と致しました、戰國時代は、最早昔日の夢となつたのでありますから、之が衰微は寧ろ文化の進歩として、大に喜ばねばならないのであります、今日我々が馬術の競技を試みまするのは、敢て寛永當時の馬術家が、精を極め妙を盡しましたものに倣はんとするのではありません、只だ素人ながらも

多年鞍上の研究には工夫を凝らした事もありますれば、聊か馬援の氣魄を學んで茲に同好の士と、競技を試むる所以であります、苟も之に興味を有せらるゝ諸君は、斯道復興の爲めに、一臂の勞を吝まれなれば、吾に体育上に資する所あるのみならず、士氣を鼓舞する点に於て、強ちに裨益なしは、申されずまい、之を開會の辭と致します。

發明品品評會に於て

諸君……本日發明品々評會を開會致しまするに付て、一寸諸君に御注意申上げて置たい事があります、部門は丁度二十八に分れて居りますが、出品点数は幾千百の多きに達したのであります、從來の實用新案や、專賣特許品は、規模も至つ

て貧弱なもので、大抵歐米の發明品を、模造した物が多くて、未だ社會の耳目を聳動するやうな、大發明はなかつたのであります、處が……近來科學の進歩に伴ふて、總ての發明品も、全然一生面を開きまして、殆んど歐米の發明品に、雁行するに足るやうになりましたのは、確かに工業上の一大進歩を見なければならぬのであります、我國も行く行くは、歐米各國の如く、發明者の功勞を表彰するの道を開くと同時に、世の富豪家が、考案中の生活を補助するやうになりましたならば、發明家も充分研究に没頭するこゝが出来ますから、今日以上斬新奇抜な大發明がある事は、私の信じて疑はない所であります、未だ審査を遂げない事でありますから、孰れを優秀なりと、豫斷する譯には参りませんが、何にしる一般の發明品が、頗る眞面目な研究によつて、構成されたものである事は、推賞に

値ひするのであります、萬望——諸君は第一館より第二十八館まで、御見落しのないやう、御巡覽の後に、忌憚なき御批評を加へて戴きますれば、私共は他山の石として、難有御受致すのであります、此お暑い處に、御責臨下さいました御厚意は、關係者一同を代表して、私より深く感謝致すのであります。

(は) 講演 演 体

拜啓と陳者

歐米のレターや、支那の尺牘は、措辭が簡勁で、頗る氣の利いたものであります、日本の通俗文は、詞藻に心を用ひません爲めか、冗長でなければ平漫で、殆んど見るに足らないのであります、恃り頼山陽の尺牘は、詞翰双絶で、筆花四散

の妙趣がありますのは、確かに文苑の偉觀であります、夫の鎌倉時代の通俗文な
 きは、今日より見ますれば、實に悠長なもので、文中一句毎に、候の字を連用致
 しますから、此候は何にて候やと、反問したくなる位であります、殊にむかしよ
 り、重複の文字を、平氣で書き流す悪い癖があるのであります、因襲の久しき止
 むを得ず致しましても、斯る弊習は速かに一掃せなくてはなりません、先づ敬
 語の部分では、佛閣には御御堂と唱へ、神輿には御々興と呼び來りて、毫も其重
 複を怪まないやうであります、婦人の鬘髪を賞賛するに、御々髪の語があり、響
 應を謝するに、御々馳走の語があります、之を口にするだけなれば、語呂の
 便宜として、寛容してもよいのでありますが、之を筆にして平然たるに至つては
 實に馬鹿化た事ではありませんか、手紙の冒頭にも、殆んど月並的に、拜啓陳者

の四字を見ない事はないのであります、之が不文無學の徒のなす事であれば、寧
 ろ一笑に付してもよいのでありますけれども、堂々たる文士輩までも、文を慣用
 して、其重語重複に氣付ませんのは、所謂自家譬邊の着糞は、其臭氣を感ぜざる
 こ一般でありませうか、そも拜啓なる語は、拜伏して申上げますと云ふ事であれ
 ば、陳述の意義は之によつて、明白であります、更に陳者の語と同一意義を繰り返す
 事は、醉漢の管を巻くも同様、恚んな聞き苦しい事はないのであります、強辯の
 人は、或は拜伏して申上げます、其陳述の次第は箇様と云つたやうに、回護の舌
 を弄するかも知れませんが、そんな負け惜みは、世間不通の屁理窟と云ふもので
 文章の構成上、決して寛假すべきものではありません、いつまでも短を護り愚に
 憑り、強めて持俗に雷同するが如きは、智者の爲すべき事ではないのであります

一寸諸君に御注意申上げて置きます。

坊主と神主

諸君……名は實の賓云ふ莊子の成語は、名は体を現はす云ふ、我國の諺も同一意義ではありますまいか、荒木又右衛門云ふ、平凡な俗名は、何も武道の明星であつた事には、少しも關係ないやうであります、又右衛門が、渡邊數馬の助太刀で、伊賀の上野に於て、河合又五郎を始し、其擁護者數十人を斬伏せ、勇敢無比の事實があるから、其名は既に武道の明星たる、代名詞同様になつたのであります、荒木以後に、同姓同名の人は、幾程あつたかも知れませんが、其名あつて其實がなかつた爲めに、蓋棺と同時に、同郷同里の人にまで、其名は

忘れられたに相違御座いません、されば英雄豪傑太郎と命名しても、英雄たるの資なく、豪傑たるの實がありません、却て人の嘲笑を招くばかりで、其効能の薄い事は、賣藥の看板と同じく、本の虚假威しに過ぎないのであります、大分冒頭が長くなつて仕舞ましたが、之より愈々本講に移る事に致します。諸君……世人は何が故に神官と呼ばずして、神主と唱へ、僧侶と言はずして、坊主と唱へるのでありませうか、名義上同一であるから、孰れを唱へても、敢て褒貶の意味を含んだものではない、強辯する人があるかも知れませんが、深く群衆心理に立入て見ますれば、其稱呼の異なるやうに、尊敬の分量も輕重あるを免れないやうであります、坊主と云へば、直ちに破戒腥臭を聯想し、神主と申せば酒色沈湎を聯想致しますのは、強ち私一人でなく、諸君も定めし御同感であら

うご信するのであります、今日の宗教界を見渡しまするに、果して法力を以て、衆生を濟度すべき高僧名僧が居るのでありませうか、又神力に藉りて、病難苦厄を除き得る、權威ある神官が居るのでありませうか、一たび思ひを茲に及しますれば、私は何もなく胸中の寂寞を感じずには居られないのであります、神に依らんごすれば、莊嚴不可侵な神社の祠官にして、賽銭の盗用者があります、佛に頼らんごすれば、一宗を代表する、本山の僧侶にして、猶且つ法律の罪人たるものがあります、かるが故に今や國民の總ては、神佛の存在すら疑ふて、何等の信仰信念がありませんから、滔々胥て放逸淫蕩に流れました結果、生活の不安を叫んで、思想は益々險惡の一方に傾くやうであります、之が原因を探つて見ましたならば、色々複雑な事情が、潜在する事は言ふ迄もありませんが、宗教家の墮落も

亦た其一半の罪を負はねばならないと思ふのであります、總じて神官にせよ僧侶にせよ、世襲制度を撤廢して、専ら學徳兼備の善智識を擧ぐるやうに致しますれば、酒色沈湎の徒や、破戒腥臭の輩が、跋扈する憂ひもなければ、又神佛の威靈を冒瀆する事もなくなる筈であります、然るに現時の制度によりますれば、人格の高下を問はず、簡單なる神典や經典の一部を試験して、直ちに群衆指導の許可を與へて、父祖傳來の社寺に、住職となり社掌となり得るのでありますから、終に斯る弊害を醸成したものと云はねばなりません、由來肉食者は共に談ずるに足らないのであります、私は諸君と共に、自奮一番、務めて克己の念を涵養して、神明の加護を、佛陀の慈光に浴して、此類風汚俗を匡救すると共に、腥臭坊主や墮落神主は、宗教界より驅除して、人心の藪ふ所を知らしむる事に、努力致した

いものであります。斯くしてこそ、始めて人間たるの名實を、全ふすることが出来やうと思ふのであります。

バイブルと論語

若しバイブルを愛の歴史とする事が出来れば、論語を以て仁の歴史と致しましても、左迄苦情の生ずる事はない筈であります。バイブルが愛の一語を以て、全篇を終始致して居りますやうに、論語二十篇も亦た仁の一字を以て貫いて居るのであります。耶穌の愛は、直覺的に神より出るもの致しますが、孔子の仁は、克己的修養より出づるものとするだけで、其意味に於ては、毫も異なる所はありません。論語は何を誨ふるかミ申しますれば、學んで君子の人となれ云ふ

のであります。さればバイブルは、怎んなものか云へば、神は愛なれば人も亦た其愛に近き、其恵みに浴して、永生の門に進め云ふに過ぎません。論語に致せバイブルに致せ、其誨ふる所其導く所は、至つて平易なもので、別段不可解な所はないのであります。後世の諸家が、餘りに穿ち過ぎました爲めに、終に難解のものとなつたのであります。諸君は先づ此二大聖人當時の事情を観察なさる事が肝要であります。當時の猶太國民は、權勢に媚び名利に趨り、偶像に佞事し淫祠に喜捨して、暗愚無智の境界を脱するこゝを知らなかつたのであります。そこで耶穌は、之を憫然と思ひまして、正義に導き道義に誘はんこ致しましたから、殘忍を去つて博愛を施せ、虚偽を離れて正義に就けよと叫んだのであります。丁度孔子が時弊を看破して、仁義忠孝等の日用常行の事を以て、禮弊樂淫の惡習

を匡救せんご致しましたのこ、殆んご徑庭はないのであります、諸君が論語を御讀みになり、バイブルを御研究なさるに方つて、先づ此二大原頭に溯つて、其脉絡を御承知になりましたならば、恰も庖丁が文惠君の爲めに、中を解くやうに、遊刃餘地あるに至るは、私の保証する所であります。

馬鹿と博士

勝海舟が老西郷を評して、彼は日本一の大馬鹿ものでなければ、稀代の大英雄であると言つたさうであります、斯の如く馬鹿も、英雄と壁一重の間柄に致しますれば、伶俐ならんよりは、寧ろ馬鹿になつた方が、髯男兒の面目かも知れません、關ヶ原の役に、西軍の不利なる事は、萬々承知の上で、三成に加擔致し

ました、大谷吉隆なごは、義侠ご云へば、義侠かも知れませんが、打算的に考へますれば、先以て大馬鹿の資格は、充分備つて居つたやうであります、降つて天保七年の大飢饉に、大塩平八郎が、革命の火蓋を切つて、時の大阪飢民を救濟せんごして、幾多有爲の門弟を、犬死させて了つたのも、壯舉ご申さば、壯舉には相違ありますまいが、其無謀無鐵砲に來ては、什麼しても伶俐の遣り口ごは申されないやうであります、されば大塩も亦た馬鹿の横綱たるに於ては、毫も不足はないやうであります、更らに學者側の大馬鹿を探して見ますれば、殆んご際限もありませんが、就中論語一經の爲めに、満頭白雪を戴くまで、研究を續けた者や終生天体を覗んで、一小星の研究に没頭致しました、天文學者なごも、馬鹿の番附面から申しますれば、開脇位は相當だらうご思ふのであります、馬鹿も大の字

の頭に冠するやうになりますれば、世の毀譽褒貶なごは、河童の屁も感じませんから、凡俗の想像も出来ない、偉大な事業を建設するものであります、大谷や大塩なごも、馬鹿化した事を行つたやうであります、一身の安危を忘れて、友人の窮に走り、飢民の急に趨いた、忠魂義膽に至つては、天地も爲に動き、鬼神も亦た爲めに泣くの概があるのであります、馬鹿も此處まで到達すれば、却々馬鹿には出来ないものであります、近來の博士連は、書卷推裏に没頭して、馬鹿の稽古に餘念がないやうであります、今猶大馬鹿の仲間入を爲す事の出来ませんのは、昔日の學者と異りまして、曲學阿世てふ、新規發明の兵法で、元老に媚び大臣に諂ひ、専ら自己の榮達に汲々乎たるの有様でありますから、いつも智愚の間を彷徨して、終に馬鹿の特色を、發揮する事が出来ないものであります、若し海舟

を九原より起して、此事に對する批評を求めましたならば、馬鹿の看板を掲げて世間を欺く横道者云ふかも知れませんが、世人が博士をバガセミ申しまするも、亦た何等かの意味があるかも知れないのであります、馬鹿な話を、馬鹿に永く致しましたならば、エ、此糞馬鹿、御叱りを蒙らないことも限りませんから、之で此話は打ち留めを致します。

(一) 演 説 体

入 學 試 験 及 第 一 等 學 校 の 入 學 試 験 を 祝 する の 辭

我友櫻井馨君は、這回第一高等學校の入學試験を、御受けになりましたが、各科殆んど満点の好成績を以て、及第の光榮を荷はれましたのは、君が心中の愉快は

申す迄もなく、御両親の御喜悅は、又格別であらうと思ふのであります、新聞の報ずる所によりますれば、受験者の總數は、一千幾百人かであつたさうであります、及第者は僅かに六十名で、而も其六十名中の首位を占められた、櫻井君の學力は、大に賞揚に値ひするのであります、之に申すも君が平生刻苦勤學の致す所であるは、勿論であります、畢竟は君が天才の然らしむる所であらうと思ふのであります、今後志を權輿に承ぎ、益々徳を修め學を講じて、勤勉忘る所がありません、卒業試験に於けるも、亦た必ず今日に倍する、好成绩を見ることは、私の信じて疑はない所であります、若し一旦の成功に誇り、自己の天才を頼んで、自鞭自撻の勇氣を喪阻せられるやうでは、悔を異日に貽す事がなほいとも限りませんから、願はくは思ひを茲に致されまして、我々の囑望に辜負せ

られないやう、一層の御奮勵を切望するのであります、我々君は、多年親交の間柄でありますから、君を愛するの餘り、頌辭を呈すると同時に、苦言を呈する所以であります、謹んで君の成功を祝します。

新嘗祭の祝辭

申すも畏き事ではあります、新嘗祭は文那の秋祭に倣はせられて、御設定になつたもので、以前は陰曆十一月中の卯の日を御選びになつて、其盛式を御舉行になつたものであります、本日私共が諸君と共に、此大祭を奉祝致しまするに付ては、滿腔の誠心を捧けて、在天の神明に感謝の意を表さねばならないのであります、世界の歴史を繙きまするに、我國を除きましては、革命相續ぎ、治亂相

半ばし、萬民其堵に安んずる事は、殆んど限定せられたやうで、幾世幾年も、泰平の安樂を享有する事は出来ないであります、恃り私共は、萬世一系の皇室を戴き、いつも如山の高恩に浴して、擊壤鼓腹の樂みを縦まゝにする事が出来ますのは、偏に神明の加護あるが爲めであります、されば私共は、平生各其業とする所を勵んで、益々其財を積むと共に、榮盛を潔くして、報本の實を見はさずばなるまいと思ふのであります、感慨の餘り聊か蕪辭を述べて、本日の大典を奉祝致します。

西陣織物業者規約勵行會に於て

諸君……精巧無比を以て、天下に雷名を轟かしました我西陣織も、博多織の盛

行と共に、稍需用の減少を來しましたのは、嗜好變遷の爲め致しますれば、又如何にもする事は出来ませんが、世人の嗜好が、専ら博多織に傾きました所以は大に研究の餘地があらうと思ふのであります、博多織の濫觴は、我西陣織に較べますれば、遙かに後ちの事でありますれば、歴史に於ても、我西陣織を最古のものにせねばなりません、更らに價格の点から申しましても、博多織は大きな差ないのであります、まして人物花鳥の如き、精巧を要する者になりましたは、恃り博多織のみならず、我國の織物中、恐らく我西陣織に追隨すべきものはないのであります、されば何が故に流行の消長を來したかご申しますれば、博多織は近來著しく意匠を一變致しました爲めに、一般の精采を添加した計りでなく、人物なり花鳥なり、活氣の横溢を見るが爲めに、甘く時代精神に投合して、今日の盛

行を見るに至つたものさ、思はれるのであります、我西陣織も、敢て活氣ないごは申しませんが、多年の習慣に囚れて、一に舊式のみに拘泥致しました結果、多少時代遅れの傾きがないごは言へないやうであります、よつて今後は、濃厚複色なものば、務めて避ける事に致して、單色單采を選ぶやうに致しましたならば、今日の頽勢を挽回して、昔日の好況に變ずる事は、敢て至難ではあるまいと思ふのであります、しかするには、組合一同が歩調を一にして、博多織に對抗するの勇氣がなくては、決して其目的は達せらるゝものではありません、此際規約に訂正を加へて、之が勵行に努力致したいものであります、因循姑息は、今日の時代に處する所以でありませんから、萬望……諸君も、費川云々に藉口せずして、速かに之が實行に着手せられんごを、希望致すのであります。

入營者を送るの辭

討清膺露の戦争當時は、丁年前後の青年までが、血書して從軍を志願する者さへあつたのであります、されば徴兵検査に合格致しました者は、得意満面、我事就れりご云つたやうな、慨然たる意氣があつたものであります、這は國家の興廢に關する、非常の場合でありましたから、従つて義勇奉公の念が、層一層勃發した所以でありませう、然るに近年に至りましては、著しく思想の動搖を來すご同時に、奉公の觀念が、漸次稀薄に流れて、徴兵を忌避する者が續出するに至りましたのは、國家の生存上、實に憂慮に堪へない事共であります、此事に付きましては、只今細説するを好みませんが、斯る傾向あるの今日、徴兵は男兒奉公の一

端であるを觀念して、御本人の弓野發矢君を始めとして、御兩親御一門の方々までが、之を無上の光榮として、今日入營祝の盛宴を張られました事は、恃り弓野君一家の名譽なるのみならず、實に我郷黨の一大名譽であります、申上る迄もありませんが、入營の後には、能く軍紀を嚴守せられて、天晴國家の干城たるべき軍人なられんことを、切に希望致すのであります、満坐の諸君、大觥滿引、弓野君の前途を祝福して、大に此行を壯にしたいものであります、一同を代表して、私より祝辭を呈します。

入札會席上に於て

諸君……我々同業者が、時々開催致しまする、入札會に集りまするものは、大概不

斷の顔馴染計りでありますから、互に徳義を重んじて、欺罔な事は致しません。今日の如き多數の會合には、いつも面白からざる手段を弄する人がありますから甚だ失禮かも知じませんが、主催者の責任ある私としては、沈黙を守つて居る譯には参りませんから、私の氣付ました儘を申上る積りでありますれば、萬望……悪く御解釋のないやうに、御願ひ申上たいのであります、入札者の責任として、落札の場合は、直ちに決算すべき事は、言ふまでもありませんが、懷中何等の準備もなくして、談合金見當に、身分不相應の入札を敢てする者があります、僥倖に落札致しました際は、竊かに第二点第三点の人に向つて、其引受方を迫つて、利益の分配に與らうと云ふのでありますから、談合の成立までには、長時間を要するので、主催者の迷惑も、會場の混雜は一ト通りではありません、甚しき

至りましては、談合が折合すに、妄に棄權して遁出する者さへあります、這は入札會の精神を没却する計りでなく、出品者に對しましても、誠に申譯のない事でありますれば、今日千圓以上の貴重品に入札せらるゝ人々は、保証として其半額を主催者に、御供托下さるやう願ひたいのであります、そこで供托証のない人が、よし落札致しましても、權利の移轉は認めませんから、眞面目に御入札なさる方々は、御安心なさつて、御入札下さるやう、前以て申上げて置きます、餘り無遠慮な事を申上りまして、諸君の御感情を害したかも存じませんが、公平を維持するに付ては、又止むを得ざる次第でありますれば、悪しからず御聽取を願ふのであります。

肉食獎勵會に臨みて

平生肉食を攝つて居りまする、禪門の僧徒に、長命者の多いのを見て、菜食萬能を謳歌する人がありますが、果して菜食がそれ程の特効あるものでありませうか、私は多少疑ひを存する一人であります、禪僧の如く、性慾を抑制して、畢生孤獨の生活を續けまするには、常に菜食のみ攝つて居ても、童顏鶴髮の健康を保つことも出来ませうが、社會の荒波に棹さして、目的の彼岸に到達しやうと致しませうには、血を吐く想ひの艱難も嘗めなければならぬのでありますから、身神の營養を補給する所の肉食を攝らなければ、決して活動を繼續することは出来るものではありません、又田舎の百姓に、長壽者の多いのも、菜食攝收の爲めだ云